

平成30年 第5回教育委員会 会議録

|       |                                                                                                                        |
|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 日 時   | 平成30年3月27日（火） 午前9時30分～午前11時15分                                                                                         |
| 場 所   | 向日市立図書館 研修室                                                                                                            |
| 出席委員  | 永野教育長、前田委員、白幡委員、松本委員、流石委員                                                                                              |
| 事 務 局 | 教育部長、副部長兼文化財調査事務所長、副部長兼文化資料館長、副部長兼生涯学習課長、教育総務課長、学校教育課長、学校教育課担当課長、学校教育課主幹2名、教育総務課主任                                     |
| 議 題   | 委員会諸報告<br>議案第4号 向日市教育委員会事務局組織規則及び向日市教育委員会職員の職の設置に関する規則の一部を改正する規則について<br>議案第5号 向日市スポーツ推進委員の委嘱について<br>議案第6号 人事に関することについて |
| 傍 聴 者 | なし                                                                                                                     |
| 教育長   | 開会宣言                                                                                                                   |
| 教育長   | 会議規則の規定により、第2回、第3回及び第4回の会議録の承認について諮る。                                                                                  |
|       | （全員異議なし）                                                                                                               |
| 教育長   | 会議録は承認された。<br>委員会諸報告として、「向日市議会平成30年第1回定例会一般質問答弁要旨及び総務文教常任委員会質疑について」の報告を願う。                                             |
| 事務局   | — 向日市議会平成30年第1回定例会一般質問答弁要旨及び総務文教常任委員会質疑について —<br><br>（資料に沿って概要を説明）<br><br>【質疑等】                                        |
| 委員    | 適応指導教室の指導員の人数について、金曜日に1名増員したと答弁されているが、他の曜日の指導員も増員する必要があるのではないか。                                                        |
| 事務局   | 「適応指導教室整備指針（案）」では、通室生10名以上に対して複数以上の対応が望ましいとの目安が示されており、本市においては、通室生が10名に満たない状況である。<br>しかし、通室生一人一人の支援の充実を図るためには、指導員の複数体   |

|     |                                                                                                                             |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|     | <p>制が必要であると考えており、引き続き京都府教育委員会に対し要望を行い、指導員の確保に努めてまいりたい。</p>                                                                  |
| 委員  | <p>指導員を増員した時期について理由はあるのか。</p>                                                                                               |
| 教育長 | <p>近年の傾向として、学年が変わる４月当初より、長期休暇明けである９月の方が通室生の増加が見受けられるためである。今後においても、状況に応じて対応していく。</p>                                         |
| 委員  | <p>適応指導教室の通室生の健康診断について、学校での受診が困難な場合には、保護者と連携しながら学校医のもとへ出向くなどの方法で対応を行うとあるが、学校医が家庭を訪問する方法を検討してはどうか。</p>                       |
| 事務局 | <p>診断項目によっては、専門の検診器具や環境を整える必要があり、家庭では診断が困難な場合もあると想定されるため、現状では考えていない。</p>                                                    |
| 委員  | <p>適応指導教室の通室生に係る保護者から、懇談会を行いたい等の相談が教育委員会にはあるのか。</p>                                                                         |
| 事務局 | <p>教育委員会あてに、懇談したい等要望書の提出があった。しかし、全ての通室生の保護者のプライバシーの保護に配慮する必要があり、現在は意向把握に努めているところである。</p>                                    |
| 委員  | <p>中学校給食の開始時期について、平成３０年度中の実施と答弁されているが、生徒や保護者も関心が高いと感じる。学校や地域に対して、定期的に情報提供を行う必要があると感じる。</p>                                  |
| 事務局 | <p>「広報むこう」や「学校だより」等で周知に努める。</p>                                                                                             |
| 委員  | <p>中学校だけでなく、小学校にも情報提供して欲しい。</p>                                                                                             |
| 委員  | <p>中学校給食の食育について、各校に位置付ける「給食主任」とはどういった方が担うことになるのか。</p>                                                                       |
| 事務局 | <p>詳細は決まっておらず、今後、向日市中学校給食実施検討会議の中で、検討していく予定である。</p> <p>現在食育が実施されている小学校では、担任が担っているケースが多く、中学校においては、教務主任又は家庭科の教諭などを想定している。</p> |
| 委員  | <p>教職員の長時間勤務の縮減について、西ノ岡中学校で部活動指導員の配</p>                                                                                     |

|     |                                                                                                                                      |
|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|     | 置を受けているとあるが、具体的にはどのような運用をされているのか。                                                                                                    |
| 事務局 | 部活動指導員が、昨年度ソフトテニス部の指導に週１６時間程度あたっている。教職員のクラブ活動に係る指導の時間を、学校業務に係る時間に転換することで、業務量の負担軽減を図るものである。                                           |
| 委員  | 第４向陽小学校の教室の増築について、改めて、いつ工事を行い、いつから使用開始するかを伺いたい。                                                                                      |
| 事務局 | 通学する児童に係る教室数が、利用可能な教室数を超過することが見込まれることから、平成３０年度に今後の増築等に係る調査及び設計業務を行う予定である。その結果に基づいた工事の実施を平成３１年度に行い、平成３２年度からは、増築した教室を使用できるように進めてまいりたい。 |
| 委員  | 中学校給食について、おはしやスプーン等の準備は各自で行うのか。                                                                                                      |
| 事務局 | 食器と同様、給食センターで準備を行う予定である。                                                                                                             |
| 委員  | 調理器具の全てを次亜塩素酸の中に漬け込むことは困難であると回答されているが、衛生基準などでは定められていないのか。                                                                            |
| 事務局 | 洗浄方法については、次亜塩素酸に漬け込むことまでは定められていない。                                                                                                   |
| 委員  | 公会計システムとは、具体的にはどういうものか。                                                                                                              |
| 事務局 | 給食費を公会計化することで、市が一括で管理する必要がでてくるため、徴収管理や納付書の発行などが行えるシステムを導入するものである。                                                                    |
| 委員  | 児童虐待の疑い等を察知する点で、健康管理を行っているとあるが、肥満児童の指導は行っているのか。                                                                                      |
| 事務局 | 養護教諭等が行っている。                                                                                                                         |
| 委員  | 健康診断の要治療となった場合は、治療完了の報告書が提出されなかった場合の対応等が述べられているが、保護者が金銭的な事由で治療を行えないといった事例はあるのか。                                                      |

|     |                                                                                                                                                                                 |
|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事務局 | <p>児童の医療費については、福祉医療制度を利用することができるため、金銭的事由で児童が治療を行えないといった例は把握していない。</p>                                                                                                           |
| 委員  | <p>留守家庭児童会の利用者が増加し、会によってはクラスの活動場所が離れてしまうこともあるとのことだが、指導面での影響はあるのか。</p>                                                                                                           |
| 事務局 | <p>クラスごとに活動することとなっているため、クラスが離れていること事態に問題はないと認識している。使用する場所は時期ごとに入れ替える等、偏りがないように配慮している。</p> <p>また、留守家庭児童会全体の行事の際は、一同に集える場所を借りるなどの対応を行っている。</p>                                    |
| 委員  | <p>文化資料館での古代衣裳の貸し出しについて、本来の趣旨から逸脱しすぎないようにして欲しい。</p>                                                                                                                             |
| 事務局 | <p>古代衣裳の製作は、古代の衣裳に関する正しい知識を身につけた上で、より多くの方に衣裳を通じて古代の都・長岡京の歴史や文化の一端に触れていただくことを目的としているため、委員ご指摘のとおり逸脱しすぎないように配慮する。</p>                                                              |
| 教育長 | <p>次に、議案第４号「向日市教育委員会事務局組織規則及び向日市教育委員会職員の職の設置に関する規則の一部を改正する規則について」を上程する。</p>                                                                                                     |
| 事務局 | <p>― 向日市教育委員会事務局組織規則及び向日市教育委員会職員の職の設置に関する規則の一部を改正する規則について ―</p> <p>本案は、向日市立の小学校及び中学校に勤務する府費負担教職員の服務や、その他勤務条件に関する事務を処理する職として「人事主事」を設置するものであり、それぞれ規則の整理を行うものである。</p> <p>【質疑等】</p> |
| 委員  | <p>これまで府費負担教職員の服務等は、誰が担っていたのか。</p> <p>また、任期等は別に定めるのか。</p>                                                                                                                       |
| 事務局 | <p>これまでは、府費負担教職員の服務に関することは、「人事主事」と位置づけてはいなかったものの、職員が行ってきた。</p>                                                                                                                  |

|     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 教育長 | <p>また、教育部長が担ってきた学校現場、京都府教育委員会との調整も、今後「人事主事」が行う予定である。</p> <p>府費負担教職員の人事に関わることは、京都府教育委員会に権限があることから、行政職員では調整が行い辛い面があったため、この「人事主事」は、学校長を経験された者等を検討している。</p> <p>また、任期等については、市長部局が定めている嘱託職員を準用するもので、別に定める予定はない。</p> <p>議案第４号「向日市教育委員会事務局組織規則及び向日市教育委員会職員の職の設置に関する規則の一部を改正する規則について」の採決を行う。</p> <p>(全員挙手)</p> |
| 教育長 | <p>全員挙手により、議案第４号は承認された。</p> <p>次に、議案第５号「向日市スポーツ推進委員の委嘱について」及び、議案第６号「人事に関することについて」を上程する。</p> <p>この議案は人事に関することであるため、秘密会にしたいと思うが、賛成の方は挙手願う。</p> <p>(全員挙手)</p>                                                                                                                                            |
| 教育長 | <p>全員挙手により秘密会とする。</p> <p>(以下秘密会)</p>                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 教育長 | <p>議案第５号「向日市スポーツ推進委員の委嘱について」の採決を行う。</p> <p>(全員挙手)</p>                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 教育長 | <p>議案第５号は承認された。</p> <p>議案第６号「人事に関することについて」の採決を行う。</p> <p>(全員挙手)</p>                                                                                                                                                                                                                                   |
| 教育長 | <p>議案第６号は承認された。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 教育長 | <p>秘密会を解く。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                        |

(以上秘密会)

閉会宣言

# 平成30年第5回教育委員会

平成30年3月27日（火）

午前9時30分から

向日市立図書館 研修室

## 1 開 会

## 2 議 題

### （1）委員会諸報告

向日市議会平成30年第1回定例会一般質問答弁要旨及び総務文教常任委員会質疑について

### （2）議案第4号 向日市教育委員会事務局組織規則及び向日市教育委員会職員の職 の設置に関する規則の一部を改正する規則について

議案第5号 向日市スポーツ推進委員の委嘱について

議案第6号 人事に関することについて

## 3 閉 会

向日市議会平成30年第1回定例会一般質問答弁要旨及び総務文教常任委員会について

平成30年3月27日

教育総務課

平成30年3月6日から7日までに開催されました、向日市議会平成30年第1回定例会一般質問答弁につきまして、教育委員会分は以下のとおりでしたので報告します。

| 質 問 要 旨                                                     | 答 弁 要 旨                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|-------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>(公明党議員団<br/>長尾 美矢子)<br/>結婚新生活支援について<br/>古代衣裳着用体験について</p> | <p>【教育部長答弁】</p> <p>文化資料館における古代衣裳関連の事業は、平成26年度から、向日市まつりで行われていた大極殿衣裳行列に協力するようになったことに始まり、その後、ふるさと向日市創生計画に掲げた「史跡長岡宮跡や古墳群等の魅力あふれる全国に知られたまち」を目指した魅力発信の一つとして取り組んできた。</p> <p>平成27年度からは、ファッションショーやワークショップ、講演会など、こどもたちから成人の方までを対象とした、さまざまな事業を開催してきた。</p> <p>また、同じ平成27年度から古代衣裳事業の担い手として、ボランティアグループを結成し、関心のある市民有志の方々に、年間を通して、復元古代衣裳の制作や着用のサポート、着用後のメンテナンスなど、積極的に活動してもらっているところである。</p> <p>今年度は、古代衣裳の復元を研究されている専門家の指導を受け、展示用及び着用体験用衣裳の充実を図った。</p> <p>来年度に向けては、長岡宮の遺跡があるまちとしての向日市を更にPRするため、年に一度の向日市まつりでの行列だけではなく、体験事業の拡充を目指して、ボランティアグループの方々とともに、実施方法を検討しているところであり、議員の提案のように、新婚の方に古代衣裳を気軽に着用し、撮影してもらえよう、更に工夫していきたい。</p> <p>また、長岡宮の貴族等の衣裳をより多くの人に着用してもらえよう、関連する予算を本議会で審議されているところであり、これまで向日市の歴史を学ぶ来館者に向けての展示や普及事業を中心にしてきた文化資料館であるが、今後は歴史を体験・体感できる場所としても、家族連れなどで、利用できるよう、各種事業を実施していきたい。</p> |
| <p>(飛鳥井 佳子)<br/>あらゆる場面で障がい者が参加できることについて</p>                 | <p>【教育長答弁】</p> <p>向日市成人式は新成人の門出を祝うため、これまでから市民会館で開催していたが、平成29年及び30年については、多数の新成人参加のもと、また、飛鳥井議員も臨席され、多くの来賓の方々に祝福</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |



|                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>成人式について</p> <p>(MUKOクラブ<br/>和島 一行)<br/>適応指導教室について<br/>開室日について</p> <p>(要望)<br/>保護者から議会等に対して要望書も出されているところであり、ぜひとも開室日の拡大など保護者の要望に応じてほしい。</p> | <p>いただくなか、イオンシネマ京都桂川で開催することができた。</p> <p>平成30年向日市成人式を開催するにあたり、車いすで来場の方、手話通訳の希望者、参加にあたって特別な配慮が必要な方々が安心して来場できるよう、広報むこうをはじめ、新成人へ送付している式の案内の中にも記載した。</p> <p>あわせて、学校や関係機関と連携し、新成人全体の状況把握にもできる限り努めるとともに、必要に応じ、いつでも対応ができるよう準備してきたところである。</p> <p>今後においても、案内文がより分かりやすくなるよう工夫するなど、障がいの有無に関わらず、多くの新成人に安心して参加してもらえるように努めるとともに、本市の将来を担う新成人にとって、希望に満ちた心に残る成人式となるよう、しっかりと取り組んでいきたい。</p> <p>【教育長答弁】</p> <p>本市の不登校児童生徒の状況は、その要因・背景が多様化・複雑化しており、学校や福祉などの関係機関と連携を図りながら、個々の児童生徒の状況や保護者のニーズを踏まえた対応に努めているところである。</p> <p>教育委員会の支援策としては、適応指導教室の設置や臨床心理士による教育相談活動など不登校児童生徒及び保護者への支援を行うとともに、平成28年度からは、学校に心の相談サポーターを配置し、教室に入りにくい児童生徒への学習支援や教育相談などを行い、不登校の未然防止に取り組んでいるところである。</p> <p>本市の適応指導教室では、通室生の主体性の育成や人間関係の改善等を図ることにより、早期に学校への復帰ができるよう支援をしていることから、天文館の開館日である水・木・金曜日の午前中を開室とし、学校へ登校できる時間を設けている。</p> <p>これまでの通室生には、適応指導教室への通室と学校への登校のバランスを図りながら希望進路の実現を果たす生徒がいるなど、学校への復帰や主体的な進路選択の基盤となる生活リズムの調整が可能であり、現在の開室状況を基本とし、多様な教育機会を通して、通室生の状況に応じたきめ細かな支援に努めていきたいと考えている。</p> |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|-----------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>指導員の人数について</p>                       | <p>教育相談員や担当指導主事の指導のもと、本年度は各曜日に、臨床心理を学ぶ大学院生1名を指導員として配置している。</p> <p>また、通室生の状況は、今年度は4月に2名、9月に3名、10月に4名、11月に5名、そして、現在7名とこれまでになく増加している。</p> <p>一方で文部科学省の「適応指導教室整備指針（案）」で示されているものは基準というよりは、目安であり、実情に応じて整備することとされている。</p> <p>その指導員の複数体制の目安である10名に満たない状況ではあるが、通室生一人一人の状況に応じた支援を一層充実させるため、平成27年度から京都府教育委員会の不登校支援に関する委託事業を受け、毎年、通室生の増加が見込まれる9月から金曜日に指導員を1名増員しているところである。</p> <p>指導員の増員により、活動の幅が広がり、通室生が自分の思いを伝える場面が増えるなどの効果が表れているため、今後においても、京都府教育委員会に対し、さらに要望するなど、指導員の確保に努めていきたい。</p> |
| <p>保護者の相談窓口について</p> <p>保護者との懇談会について</p> | <p>現在、通室生に係る保護者からの個別相談には、臨床心理の専門家である教育相談員が窓口となり、来所相談時に対応しているところである。</p> <p>さらに、毎日の通室生の様子については、教育相談員だけでなく担当指導主事が把握しており、教育相談員が不在の際にも対応できる体制を整えていることから、今後、更に指導員と緊密に連携しながら、教育相談員と担当指導主事が中心となって窓口の強化に努める。</p> <p>次に、懇談会等については、実施について、すべての保護者のニーズを踏まえる必要があり、また、個人のプライバシーの保護に十分配慮しなければならないことから、まずは、保護者の意向把握に努めたい。</p>                                                                                                                                                             |
| <p>児童生徒及び保護者への周知について</p>                | <p>市のホームページや本市教育委員会作成のパンフレット「向日市の教育」への掲載だけでなく、不登校に係る来所相談において、教育相談員によるアセスメントに基づき、適応指導教室の設置目的や通室生の活動を紹介するなど、丁寧な説明に努めているところである。</p> <p>また、学校で教員と保護者が面談を行う場面においても、不登校の状況に応じて教員が適応指導教室について具体的に説明しており、体験を経て通室に至るケースも見られるところである。</p> <p>一方で、保護者の方から教育委員会や学校へ、適応指導教室に係る電話での問い合わせもあるので、児童生徒及び保護者にとって、わかりやすい内容となるよう、今後、ホームページへを更新し、さらに、年度当初に適応指導教室の活動内容等を記載したチラシを全児童生徒に配付する他、広報むこうへの掲載など周知徹底に努めていく。</p>                                                                              |

|                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|--------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>通室生の健康診断について</p> <p>(日本共産党議員団<br/>常盤 ゆかり)</p> <p>中学校給食について<br/>中学校給食の開始時期について</p> | <p>通室生を含めた不登校児童生徒の健康診断について、丁寧に対応する必要があると考えている。</p> <p>各学校の健康診断は、原則として、健診項目ごとの学校医の来校や検診器具等、受診環境の整った学校において慎重に実施しており、その際、児童生徒一人一人の状況に応じて受診時間や場所等、十分に配慮しているところである。</p> <p>今後とも、児童生徒一人一人の状況に応じた健診に努め、学校での受診が困難な場合には、保護者と連携しながら、学校医のもとへ出向くなどの方法により対応していきたい。</p> <p>今後においても、すべての児童生徒にとって学校が安心感、充実感が得られる活動の場となり、安心して学習し豊かな学校生活を送ることができるよう、魅力あるより良い学校づくりを推進するとともに、不登校児童生徒が自らの進路を主体的に捉え、社会的に自立できるよう、適応指導教室の設置はもとより、児童生徒一人一人の状況に応じた必要な支援に努めていきたい。</p> <p>【市長答弁】</p> <p>「ふるさと向日市創生計画」に示しているとおり、平成31年度までのできるだけ早い時期に実施できるよう、今議会において、初日に（仮称）向日市学校給食センター建設工事及び厨房機器購入に係る財産取得について可決いただいたところである。</p> <p>また、それらに係る経費についても、電気工事や外構工事等の別途工事と合わせて、一般会計補正予算案として議会で審議いただいているところである。</p> <p>中学校給食の具体的な開始時期について、生徒や保護者を始め、多くの市民の皆様が楽しみにされておられますことは十分承知いたしている。</p> <p>しかしながら、10月末完成予定の給食センター本体工事に加え、屋外付帯工事や受入施設の整備などが必要であり、それらの具体的なスケジュールについては、今後、教育委員会において調整することとしている。</p> <p>また、給食センター完成後から給食開始までに調理業務等委託業者による建物設備や厨房機器等の動作確認及び試運転、加えて給食センターから受入施設までの配送テストなど、安全かつ確実に給食開始を行うためには準備期間を要しますことから、現時点で開始時期を申し上げることは難しいと考えている。</p> <p>これまで検討してきた計画を実行に移せるよう、新年度予算案の記者発表の場において申したとおり、平成30年度中に必ず実施したいと考えていることから、工事スケジュールや準備作業の目処がたち、具体的な開始時期が固まり次第、議会はもちろんのこと、保護者や市民の皆様にも知らせてい</p> |
|--------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>(要望)</p> <p>中学校給食については、3年生が卒業までに給食を体験できるよう早期に実施してほしい。</p> <p>学校給食センター及び受入施設の進捗状況等について</p> <p>現場の受入体制及び保護者説明について</p> | <p>く。</p> <p>本体工事の入札が成立しなかったこともあり、不確定なことが多く、予定時期に開始できるよう取り組んでいるところではあるが、現段階で開始の時期を明言することを控える。</p> <p>可能か分からないが、市議会の皆様と試食会ができればという希望をもっている。</p> <p>【教育長答弁】</p> <p>(仮称)向日市学校給食センターについては、今議会において、建設工事の請負契約の議決をいただきましたことから、3月中に工事事務所や工事エリアを設ける仮設工事を行い、4月の入学式以降に、正門の撤去から本体工事に順次着手する予定である。</p> <p>また、勝山中学校、西ノ岡中学校及び寺戸中学校の受入施設についての進捗状況や工事計画については、いずれの中学校も今年度中に実施設計を終え、夏期休業期間を中心に工事を行っていきたいと考えている。</p> <p>次に、配置場所について、各中学校の喫食時間や校内運搬時間などを考慮し、校長と協議を重ね検討してきたところである。</p> <p>まず、勝山中学校については、西校舎東側の駐車スペースに新たに設置する。</p> <p>西ノ岡中学校については、既存昇降口を配膳室に転用し、新たに昇降口を管理棟と武道場の間に設置する。</p> <p>また、寺戸中学校については、基本計画で策定した、外部に新たに配膳室を設置する場合、既存校舎等との接続部に係る建物構造上の問題や、防火改修など既存校舎の大規模改修が必要となったことから、北校舎1階の第2音楽室を転用することとしたところである。</p> <p>また、配膳室の詳細について、空気調和設備を設置するほか、牛乳の保管に必要な冷蔵庫、手洗い等、衛生上必要な設備を整えることとしている。</p> <p>中学校給食の円滑な実施に向け、配膳や後片付けのための時間の確保、各教室への運搬方法、また、教員の負担軽減への対応など、給食実施に伴う学校運営上の課題を解決するた</p> |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>食育の推進について</p> | <p>め、昨年３月に校長をはじめ各中学校現場の代表教職員と市教育委員会の担当職員による「向日市中学校給食実施検討会議」を立ち上げたところである。</p> <p>これまでに市内の小学校や府内中学校給食の視察を行うとともに、教員のための「給食指導の手引き」や「アレルギー対応マニュアル」の原案を市教委から提示してマニュアル作りを進めているところである。</p> <p>あわせて、現在、給食時間確保のための時間割の調整についても、各中学校で検討しているところである。</p> <p>教員の負担軽減のための援助については、検討会議において校長をはじめとする教職員の方々から、給食費の徴収に伴う現場の負担解消への対応について要望があったことから、中学校給食費の公会計化を実施するため、今議会において、会計システムの導入等に係る経費について新年度予算案の中をお願いをしているところである。</p> <p>次に、給食実施の説明について、学校現場への説明については検討会議の委員に各中学校の校長が入っていることから、校長を通じて給食実施に向けた取組状況等について周知している。</p> <p>最後に、保護者への説明についてであるが、給食開始時期が具体的に決定していないことや、時間割の調整など検討を要する課題等があり、現在のところ、まだ具体的に内容が固まっていないことから、今後の進捗状況を踏まえ、保護者の皆様方に対し学校毎に説明会を開催するとともに、学校だよりなどを通じ、情報提供に努めていく。</p> <p>近年の食生活をめぐる環境は変化しており、生涯にわたって健全な心身を培い、豊かな人間性を育むための食育を推進することが重要であると考えている。</p> <p>本市においては、子どもたちが食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができるよう、小学校では、各校の食に関する指導の全体計画に基づき、栄養教諭や栄養士等を中心として、各教科や道徳、総合的な学習の時間、特別活動といった学校教育活動全体を通じて系統的に取り組んでいる。</p> <p>低学年の生活科等においては、トマトなどの栽培体験で食について関心を持たせ、高学年の家庭科においては、調理実習で調理の基礎的な技能や栄養についての知識を習得させるなど、児童の発達や教科の特質に応じて指導をしている。</p> <p>また、給食試食会の実施や給食だよりの配布等を通して保護者への啓発を行い、学校給食に食材を納入している地元農家の方と児童との交流給食を通して、日頃の感謝の気持ちを伝えたり児童に地元産物への関心を持たせたりしている。</p> |
|------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|-----------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                       | <p>中学校では、従来から各校において、食に関する指導の全体計画を策定し、教職員の共通理解のもと、保健体育科における望ましい生活習慣の育成や、技術・家庭科における食生活に関する指導を中心として、校外学習等を含め、学校教育活動全体で取り組んでいる。</p> <p>現在、平成30年度中の中学校給食の実施に向けて準備を進めているところであり、各校において年間指導計画の中に「給食時間における食に関する指導」を位置づけ、系統的・計画的に実施できるよう、教育課程などの検討を進めているところである。</p> <p>給食の時間は「生きた教材」と言われており、栄養バランスのとれた食事を提供することにより望ましい食習慣を形成するとともに、友達と楽しく会食しながら食事のマナーを身に付けさせ、食事の準備や後片付けなどの作業を通じて協同、協調の精神を身に付けさせるなど、食に関する指導の中核を担う重要なものである。</p> <p>また、各校においては食育推進の中心となる給食主任を位置づけ、アレルギー対応を含む給食に関する校内研修を行うなど、校内体制の整備を進めることとしている。</p> <p>教育委員会としては、生徒が食に関する実践力をしっかりと身に付けられるよう、今後も学校との連携を図りながら、中学校給食を円滑に実施していきたい。</p> |
| 適応指導教室について<br>開室日について | <p>【教育長答弁】</p> <p>本市の適応指導教室では、通室生の主体性の育成や人間関係の改善等を図ることにより、早期に学校への復帰ができるよう支援をしていることから、水・木・金曜日の午前中を開室とし、通室生が学校へ登校できる時間を設けている。</p> <p>このことにより、適応指導教室への通室と学校への登校を自ら選択でき、学校への復帰や主体的な進路選択の基盤となる生活リズムの調整が可能となっていて、現在の開室状況を基本としつつ、多様な教育機会を通して、通室生の状況に応じたきめ細かな支援に努めていきたい。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 指導体制と保護者の<br>相談窓口について | <p>教育相談員や担当指導主事の指導のもと、本年度は各曜日に、臨床心理を学ぶ大学院生1名を指導員として配置している。</p> <p>また、通室生の状況は、2月末現在で7名が通室しており、文部科学省が示している指導員の複数体制の目安である10名に満たない状況ではあるが、通室生一人一人の状況に応じた支援を一層充実させるため、平成27年度から京都府教育委員会の不登校支援に関する委託事業を受け、毎年、通室生の増加が見込まれる9月から金曜日に指導員を1名増員</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |

|                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>適応指導教室の周知について</p> <p>(再質問)</p> <p>適応指導教室について、現在のような水木金曜日開室の場合、土曜から火曜まで4日が休みとなり、また、家に引きこもってしまう。開室日の拡大について考えを問う。</p> <p>(要望)</p> <p>まずは保護者と懇談してしっかりと意見を聞いてほしい。</p> <p>(新政クラブ</p> | <p>しているところである。</p> <p>今後も、京都府教育委員会に対し、更に要望するなど、指導員の確保に努めていきたい。</p> <p>次に、保護者の相談窓口について、現在、通室生に係る保護者からの個別相談には、臨床心理の専門家である教育相談員が窓口となり、さらに、毎日の通室生の様子については、教育相談員だけでなく担当指導主事が把握しており、教育相談員が不在の際にも対応できる体制を整えている。</p> <p>今後、一層教育相談員と担当指導主事が指導員と緊密に連携しながら、相談窓口の強化に努めていく。</p> <p>市のホームページ等への掲載だけでなく、不登校に係る来所相談において、教育相談員が、適応指導教室の設置目的や通室生の活動を紹介するなど、丁寧な説明に努めているところである。</p> <p>また、保護者の方から教育委員会や学校へ適応指導教室に係る問い合わせもあることから、今後、ホームページへの掲載をわかりやすい内容に更新し、さらに、適応指導教室の活動内容等を記載したチラシを全児童生徒に配付する他、広報むこうへの掲載など周知徹底に努めていく。</p> <p>今後においても、不登校児童生徒が自らの進路を主体的に捉え、社会的に自立できるよう、適応指導教室の設置はもとより、児童生徒一人一人の状況に応じた必要な支援に努めていきたい。</p> <p>【教育長答弁】</p> <p>答弁のとおり、通室と学校への登校のバランスを図りながら現在の開室日としている。</p> <p>これまでは3名から4名までの利用者の中で運用してきたが、今までにない7名に増えている状況になっており、学校復帰や新たな入室など今後の状況を把握しながら、一人一人の状況を見極めたい。</p> <p>また、場所やスタッフの問題があるので、総合的に考えていきたい。</p> <p>【教育長答弁】</p> |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|----------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>小野 哲)</p> <p>教員の長時間勤務について</p> | <p>時間外勤務の縮減は、教員の健康及び福祉の増進を図るだけでなく、児童生徒と向き合う時間の拡充につながるものであり、極めて重要であると考えている。</p> <p>本市の状況については、平成２５年度に教員の退勤時刻等を調査した「勤務時間の実態調査」において、平日午後８時以降の退勤者の割合は、小学校で４７％、中学校で３４％、休日出勤者の割合は、土日どちらか及びほぼ両日出勤を含めて小学校で３６％、中学校で７８％であった。</p> <p>また、文部科学省の平成２８年度「教員勤務実態調査」では、過労死ラインである月８０時間相当以上の超過勤務者の割合は、小学校で３４％、中学校で５８％であった。</p> <p>さらに、京都府教育委員会が本年度実施した、公立学校教員の「勤務実態調査」によると、月８０時間以上残業している教員は、全国と比べ、相当多くなっている。</p> <p>本市調査は、全国及び京都府の調査と時期や内容に違いがあり、単純に比較はできないが、本市における教員の勤務実態も、厳しい状況にあると考えている。</p> <p>このため、来年度、各小中学校に出退勤管理システムを導入し、一人一人の勤務時間を把握し、適正な勤務時間管理に役立てるとともに、労働安全衛生法に基づくストレスチェックや医師による面接指導を実施したいと考えており、今議会に所要の予算をお願いしているところである。</p> <p>また、本市の「勤務実態調査」においては、中学校教員の休日出勤の割合が高く、休日出勤者の８２％が部活動に従事していた。</p> <p>部活動は、生徒の自主性を尊重しつつ、スポーツや文化等に親しむとともに、学習意欲の向上や責任感、連帯感等の育成に資するものであり、学校教育の中でも、教員が生徒と向き合う貴重な機会と捉え、生徒や保護者の期待も踏まえ、対外試合やコンクール等に参加するなど、年間を通して計画的に活動をしているところである。</p> <p>本市の部活動の現状としては、既に平日週１回の休養日を設け、定着をしているが、さらに、生徒の心身の健康面から、休日も含め適切な休養日の設定が検討課題となっている。</p> <p>そうした中、本年度は、京都府教育委員会が実施する教職員の働き方改革の新たな取組の一つとして、西ノ岡中学校において、単独で生徒の引率業務が可能な部活動指導員の配置を受け、教員の負担軽減について実践研究をはじめたところである。</p> <p>また、教育委員会としては、学校指導体制充実のため、これまでから、特別支援教育支援員等を配置するとともに、学校における業務改善に向け、校務支援システムの新たなソフ</p> |
|----------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|



|                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>(杉谷 伸夫)</p> <p>行政運営について<br/>就学援助について<br/>新入学学用品費の入<br/>学前支給について</p> | <p>トを導入し、校務の一層の効率化を図ったところであり、各学校においては、会議の精選や行事の見直し、ノー残業デーの設定、電話対応時間の短縮など学校の状況に応じた取組を行っているところである。</p> <p>今後においては、本年２月の「学校における働き方改革」にかかる文部科学事務次官通知や、スポーツ庁が策定予定の「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」、京都府教育委員会策定の「教職員の働き方改革実行計画」にかかわる総合的な取組等について、本市としてどのように進めるのか、校長会と連携するとともに、保護者や地域の理解も得ながら、時間外勤務縮減のための取組を学校の実情に応じて、適切に進められるよう努めていきたい。</p> <p>【教育長答弁】</p> <p>就学援助制度は学校教育法第１９条に基づき、経済的理由によって就学困難な児童生徒の保護者に対して就学援助費を支給し、教育の機会均等に資することを目的とした制度である。</p> <p>その内、新入学学用品費については、通学かばんや制服など、入学前に購入する物品にあてられる費用であり、本市としても、入学前に支給することの必要性については、十分に認識しているところである。</p> <p>したがって、就学援助費については、新年度のなるべく早い時期に支給するよう、例年６月末に行ってきた学用品費等の支給を、今年度は５月末に行うよう改善を図ったところである。</p> <p>新入学学用品費入学前支給の今年度実施についても、国通知の趣旨を踏まえた対応を図るため、事務を進めるうえでの課題の整理を進めてきたところである。</p> <p>これまでから全国各地で先行して入学前支給を実施している自治体に対しアンケート調査を行い、前住所地の自治体で支給を受けた方が転入後にも申請を行う二重申請への対応や、支給を受けた方が入学前に転居された際の返還方法、さらに制度の周知方法、申請の受付期間、支給時期、支給金額などの項目について、検討を行うとともに、府内市町の教育委員会における検討状況の把握に努めてきたところである。</p> <p>あわせて、学用品費等の支給時期を５月末に早めたことに伴い事務が集中し、繁忙を極める中で、新たに新入学学用品費を入学前に支給するには、事務量の大幅な増加が見込まれ、現行体制のままでは、実現困難なことから、申請から支給までの一連の事務手続きをより効率的に行えるよう、これまでの事務フローを見直し、申請書類を変更する必要がある。</p> |
|------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>クラブ活動費、P T A 会費、生徒会費について</p>                                  | <p>り、事務改善に時間を要したところである。</p> <p>その結果、今年度については、入学前の支給を実施することができなかったが、平成 3 1 年度以降に入学予定の児童生徒に対しては、事務改善により、入学前に支給できる見通しとなったことから、今議会において必要な予算をお願いしているところである。</p> <p>府内 2 3 教育委員会に実施状況を確認したところ、クラブ活動費、P T A 会費、生徒会費の 3 費目すべてを支給している自治体が 1 4 団体。</p> <p>クラブ活動費を除く、P T A 会費、生徒会費の 2 費目を支給している自治体が 3 団体。</p> <p>3 費目とも支給を行っていない自治体が本市を含め 7 団体であった。</p> <p>本市においても、クラブ活動費、P T A 会費、生徒会費の支給について、検討しているところであるが、平成 3 0 年度中に乙訓地域で初の全中学校での開始を目指している中学校給食の実施には多くの費用が必要となっている。</p> <p>また、すべての中学生が等しく給食を食べることができるよう、就学援助制度による給食費の支給を優先すべきと考えており、現時点では、クラブ活動費等の支給については難しいものと考えているが、本市の財政状況等を勘案しながら引き続き検討していきたい。</p> |
| <p>(日本共産党議員団<br/>山田 千枝子)</p> <p>第 4 向陽小学校について<br/>新年度の教室について</p> | <p>【教育長答弁】</p> <p>第 4 向陽小学校に来年度就学すると見込まれる児童数は、2 月末現在で 6 2 0 名であり、昨年 5 月 1 日現在の全校児童数である 6 1 0 名と比べ、1 0 名程度増加すると見込んでいる。</p> <p>また、平成 3 0 年度の 6 学年全体での通常学級のクラス数については、昨年 1 0 月の総合教育会議で示した推計結果において、2 1 クラスになると見込んでいたところであるが、その後、新 1 年生の私立小学校等への就学や市外転出の人数が例年に比べて多くなったことなどから、特別支援学級への入級が見込まれる児童を除く、平成 3 0 年度の新 1 年生は 9 4 名となり、通常学級としては 3 クラス編成となる。</p> <p>また、他の学年も平成 2 9 年度と同じクラス数で持ち上がることは見込まれ、平成 3 0 年度は、新 2 年生が 4 クラス、その他の学年がそれぞれ 3 クラスの合計 1 9 クラスとなり、平成 2 9 年度からクラス数は増加しない見通しとなりましたことから、来年度に向けて、既存教室の転用や教室の増設は行わない。</p>                                                                           |
| <p>今後の対策とスケジュールについて</p>                                          | <p>平成 3 1 年度につきましては、推計結果におきまして、平成 3 0 年度から 1 クラス増の 2 2 クラスになると見込んでいたが、平成 3 0</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |

|                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>2 向小・4 向小の新年度の留守家庭児童会の児童数と部屋の対策について</p> <p>(日本共産党議員団<br/>北林 重男)</p> <p>家庭教育について</p> <p>戦時家庭教育指導要項について</p> | <p>年度にクラス数の増加がなく、平成31年度に1クラス増加し、20クラスとなった場合でも、既存の教室を1教室転用することにより、児童の受入れが可能であると考えている。</p> <p>次に、今後の増築等に係るスケジュールについてであるが、市北部地域では就学前の子どもがいる若い世帯が多く、第4向陽小学校区内の就学児童数は大幅に増加することが見込まれる中、私立小学校等への進学状況によっては、入学者数が減少し、クラスの増加状況に影響することもあるが、将来的には、第4向陽小学校全体のクラス数が利用可能な既存の教室数を超過すると想定されるため、施設面での対策として、今議会において、平成30年度当初予算案の中で、学校施設の増築等に係る調査及び設計費用をお願いしているところである。</p> <p>今後、この予算の議決をいただければ、平成30年度中には、鋭意、施設の調査及び設計業務を行い、平成31年度には、この調査及び設計の結果に基づく増築工事の予算をお願いしてまいりたいと考えている。</p> <p>あわせて、引き続き、児童数の正確な推計に努め、児童数の増加に対応できるよう、対策を図っていく。</p> <p>平成30年度入会申請締切り時点での予定児童数は、第2留守家庭児童会が129人、第4留守家庭児童会が128人となっている。</p> <p>4月までに、転出入等による増減が予想されるが、今年度の4月1日現在の入会児童数と比較すると、ほぼ同数であったので、直ちに施設面での対策が必要な状況にはなく、前年度に引き続き学校施設を活用する中で対応していきたい。</p> <p>今後の留守家庭児童会の施設整備については、入会児童数の状況も踏まえながら、また、保護者のニーズが多様化している中、民間施設の動向も注視する必要があることから、今後学校施設の増築等の検討と併せて総合的に判断していく。</p> <p>【教育長答弁】</p> <p>教育基本法において、「父母その他の保護者は、子の教育について第一義的責任を有するもの」とされており、地方公共団体には「家庭教育の自主性を尊重しつつ、保護者に対する学習の機会及び情報の提供その他の家庭教育を支援するために必要な施策を講ずる」努力義務があることから、本市教育委員会はこれに基づき、家庭教育に関する施策を推進しているところである。</p> <p>本要項は戦前の昭和17年5月7日付けの文部次官通牒であり、現憲法下では法的効力のない、歴史上の資料の一つとして承知している。</p> |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|---------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>家庭教育支援法案について</p>       | <p>国会にはまだ提出されておらず、新聞等で報道されている以上の情報には接していない。</p> <p>また、教育の政治的中立性の確保が要請される教育委員会制度のもとで、教育長の政治運動が禁止されている法の趣旨に照らし、法案提出の是非についてお答えすることは控えるべきものと考えている。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| <p>個人の尊厳と両性の本質的平等について</p> | <p>全ての教育活動の基盤となるのは、互いの個性や価値観の違いを認め、自己を尊重し、他者を尊重するなど、豊かな感性を育む人権教育である。</p> <p>本市では、学校教育の指導の重点に、教育推進の一つのテーマとして「人権尊重」を掲げ取り組んでおり、児童生徒の発達段階に応じ、教科、道徳、特別活動など教育活動全体を通じて、人権尊重の意識を高めるとともに、具体的な態度や行動につなげる実践力を養っているところである。</p> <p>児童生徒は、道徳や特別活動の時間に、命の大切さをはじめ、自尊感情、互いの個性を尊重した考え方や接し方、男女の平等や相互の理解・協力について学習し、さらに、中学校の保健体育科、技術・家庭科の時間に、性に対する考え方や行動の違い、また、お互いのよさを認め合うことの大切さを学習するなど、互いの個性や価値観を尊重する態度を育んでいる。</p> <p>また、本市の家庭教育施策については、社会教育の指導の重点において、「家庭教育はすべての教育の出発点であり、その担い手である保護者自身が学ぶための学習機会の充実に努める」こととしている。</p> <p>教育委員会としては、その実現のため、市民の皆様を対象に、就学前からの家庭での子育てに役立つ知識や、インターネット・SNSを正しく利活用するための最新情報などを取り上げ、毎年、家庭教育講座を開催しているところである。</p> <p>さらに、向日市青少年健全育成連絡協議会と連携し、子どもたちの基本的な生活習慣の確立を目指して「早寝・早起き・朝ごはん」の啓発活動を行うとともに、向日市PTA連絡協議会を通じて、家庭教育の担い手である保護者同士の交流・学習の場としてのPTA活動の充実に向け、求めに応じて助言・支援を行っている。</p> <p>今後においても、社会教育関係団体と連携し、就学前からの子どもの家庭教育に関する学習機会を提供するとともに、基本的な生活習慣の重要性や現代的課題についての理解促進を図る。</p> |
| <p>生存権の保障について</p>         | <p>【教育部長答弁】</p> <p>本市としては、就学援助費をなるべく早い時期に支給する</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |

|                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|--------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>就学援助における新<br/>入学学用品費につい<br/>て</p> | <p>必要性について、十分に認識しているところである。</p> <p>今年度においては、学用品費等の支給を6月末から5月末<br/>に行うよう改善をしたところである。</p> <p>学用品費等の支給時期を5月末に早めたことに伴い事務<br/>が集中し、繁忙を極める中で、新たに新入学学用品費を入学<br/>前に支給するには、事務量の大幅な増加が見込まれ、現行体<br/>制のままでは、実現が困難であることから、申請から支給ま<br/>での一連の事務手続きをより効率的に行えるよう、これまで<br/>の事務フローを見直し、申請書類を変更する必要がある、事<br/>務改善に時間を要したところである。</p> <p>その結果、今年度については入学前の支給を実施すること<br/>ができなかったが、平成31年度以降に入学予定の児童生徒<br/>に対しては、事務改善により、入学前に支給できる見通しが<br/>たったことから、今議会において必要な予算をお願いしてい<br/>るところである。</p> <p>今後においても、就学援助制度により、経済的な理由で就<br/>学困難となっている家庭の支援に努めていく。</p> |
|--------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

向日市議会平成30年第1回総務文教常任委員会質疑要旨

- 1 日 時 平成30年2月23日（金） 午前10時00分～午前10時40分
- 2 場 所 向日市役所大会議室
- 3 委 員 天野委員長、飛鳥井副委員長、北林委員、米重委員、小野委員、福田委員、近藤委員

| 議案第25号 （仮称）向日市学校給食センター建設工事ただし建築・機械設備工事請負契約の締結について |                                                                                                        |
|---------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 議案第26号 財産（（仮称）向日市学校給食センター厨房機器等）の取得について            |                                                                                                        |
|                                                   | ○質疑                                                                                                    |
| 委員                                                | 予定価格に対しての落札率は何パーセントになるのか。また、人件費を含めた価格の落札率は何パーセントになったのか。                                                |
| 事務局                                               | 落札率は、96.85%となっている。                                                                                     |
| 委員                                                | 仮の正門と今後の正門の位置はどの場所になるのか。                                                                               |
| 事務局                                               | 現在の正門の北側に仮設正門を作る予定である。竣工後、本設の正門となる。                                                                    |
| 委員                                                | 登下校や事業に支障が出ないよう、十分な安全対策を含めてやっていただく必要がある。その点での対策はどうか。                                                   |
| 事務局                                               | 工事計画については生徒と工事動線を分離して工事する予定をしている。安全には特別配慮している。                                                         |
| 委員                                                | 給食調理室の安全管理という観点でお伺いする。機械設備工事の衛生機具設備と厨房機器の消毒保管器をもう少し詳しく説明していただきたい。                                      |
| 事務局                                               | 食器・食管の消毒保管庫のことである。                                                                                     |
| 委員                                                | 消毒保管器の内容は何か。                                                                                           |
| 事務局                                               | 洗い終わった後の食器・食管に温風等を送り、常に乾燥している状態を保つものである。                                                               |
| 委員                                                | 最新の学校給食設備を整えている施設は、調理器具で取り外せるような部品や大きなしゃもじ等を前日の給食の調理が終わった段階から次亜塩素酸の中に漬け込み、滅菌していくということをされているが、どういうお考えか。 |

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事務局  | <p>全てを分離して取り外し、次亜塩素酸に漬けておくというのは施設の面積上、厳しい。調理器具自体は、取り外してメンテ等必要であればその様にできる。日々の衛生面に関しては、調理業者やセンターに人を配置しているので、現在の基準に合うように対応したい。</p>                                                                                                                                                                        |
| 委員   | <p>夏場はどのような対策をとっても虫等が入ってくる。外部からの虫の混入対策はできているのか。</p>                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 事務局  | <p>防虫対策は完全密閉で設計している。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 委員   | <p>温度管理で、夏場は調理後、高温多湿の状態で菌が発生しやすい状況が朝まで続く。知らないうちに菌が発生して付着し、食材や料理に入ってくることがある。調理が終わって翌日調理するまでの時間の温度管理は考えているのか。</p>                                                                                                                                                                                        |
| 事務局  | <p>空気調和設備を入れて温度管理をしている。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 委員   | <p>給食の実施予定はいつからか。小学校で実施されてるように調理業務は民間委託なのか、市が調理士等を募集するのか。また、配送業務も伴うと思うが、それも民間委託なのか直接雇用を市がするのかもお聞きしたい。</p>                                                                                                                                                                                              |
| 事務局  | <p>実施予定については、できる限り早い時期に実施したいという考えはあるが、センターの完成時期を見て決める必要がある。今の時点で具体的に申し上げる状況ではないのでご理解いただきたい。</p> <p>調理業務については、配送・配膳業務も含め、民間委託で考えている。</p>                                                                                                                                                                |
| 委員   | <p>実施時期は概ね3学期からと解釈していいか。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 事務局  | <p>その辺りも含め、具体的に申し上げられないのでご理解いただきたい。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 副委員長 | <p>害虫対策について、民間委託になった時の調理の試食会で段ボールごと厨房に持ち込まれたことがある。段ボールの中に虫がいることがあるのであり得ないこと。材料だけ中に入れる等徹底されておらず、外注が心配だった。トラブルがあったので最初から不満が出ないようにしてもらいたい。運用の仕方を間違えると心配なことが起こるので、その辺りを徹底していただきたい。</p> <p>朝食を食べさせてもらってない生徒や冷たいパンを食べてきた生徒の為に昼は温かい米飯給食を増やしていただきたい。調理員の過重労働にならないように連続炊飯釜を購入するなど米飯給食を実施する為の方策も考えて購入しているのか。</p> |

|     |                                                                                                                                          |
|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事務局 | 1 点目の衛生管理について、今回の建物は全国的な最新の衛生基準に則って下処理するところ、下ごしらえするところ、調理するところの3段階に分かれて衛生管理の徹底をしている。米飯については、中学校給食では週5回の実施を想定しているので、それに耐えうるような炊飯器を購入している。 |
| 委員  | 給食センター建設工事に伴う部分だが、正門の工事はこの建設工事と一体で行われるものなのか、別途で行われるのか。                                                                                   |
| 事務局 | 正門の撤去は本工事に含まれているが、本設の正門工事は別途、屋外付帯工事として発注する予定である。                                                                                         |
| 委員  | 仮設があるということか。                                                                                                                             |
| 事務局 | 本工事で正門を撤去する為、仮設の入口も含めて今回工事する。                                                                                                            |
| 委員  | 工事車両と生徒の動線の分離について、大型車両の進入路が北か南しかないと思うが、仮設の正門の位置が、どちら側から車両が入っても正門から生徒が入る限り、動線がかぶると思うが、その点はどうか。                                            |
| 事務局 | 敷地内では交差しないよう分離し、登下校については北側の仮設の正門から入ってもらう。工事車両は現在の正門の撤去した場所から入ることになり、その2つの入口をもって工事をする計画している。<br>また、通学路対策として、ガードマンを立てるなど安全に配慮している。         |
| 委員  | 実際に運用開始された時、給食の配送トラックは正門から入ってくるのか。                                                                                                       |
| 事務局 | 基本的に正門を利用した配送を考えているが、具体的なルート等については配膳室等の完成を見ながら、学校と相談して決めていきたい。                                                                           |
| 委員  | 学校施設環境改善交付金について教えていただきたい。                                                                                                                |
| 事務局 | 給食センターの環境改善交付金については国の施策で30年度の予算を前倒して、契約をさせていただいた。                                                                                        |
| 委員  | 再入札にあたって、設計を見直した内容と工事の設計管理は誰がされるのか説明いただきたい。                                                                                              |
| 事務局 | 設計を見直したところは、人件費の高騰と建設資材の上昇があり金額の計算をやり直した。管理は今のところ業者委託を考えており、設計者に管理を依頼する予定である。                                                            |



|     |                                                                                   |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------------|
| 委員  | 設計業者名を教えてください。                                                                    |
| 事務局 | <p>設計者は京都市内の吉村建築事務所である。</p> <p>議案第 25 号：採決—全員挙手—可決</p> <p>議案第 26 号：採決—全員挙手—可決</p> |

向日市議会平成30年第1回総務文教常任委員会質疑要旨

- 1 日 時 平成30年3月14日（金） 午前10時～午後0時20分
- 2 場 所 向日市役所大会議室
- 3 委 員 天野委員長、飛鳥井副委員長、北林委員、米重委員、小野委員、  
福田委員、近藤委員

|                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 議案第21号 平成29年度向日市一般会計補正予算（第6号）（所管分） |                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|                                    | <p>○質疑なし</p> <p style="text-align: right;">採決—全員挙手—可決</p>                                                                                                                                                                                                                                             |
| 議案第27号 平成29年度向日市一般会計補正予算（第7号）      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 委員                                 | ○質疑                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 事務局                                | <p>本補正によって5か年計画が前倒しになるということはないか。</p> <p>予算の補正は前倒しになったが、計画自体はそのまま5か年で進めていく。</p> <p>国の補助が取れて前倒しということで非常によかったと思うが、当初予算に元々上がっている分との調整はどういう形になるのか。</p> <p>次の第2回定例会で減額補正をお願いしたいと考えている。</p> <p style="text-align: right;">採決—全員挙手—可決</p>                                                                     |
| 議案第1号 平成30年度向日市一般会計予算（所管分 文教関係分）   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 委員                                 | <p>○質疑</p> <p>出退勤管理システム整備の関係で、京都新聞に京都府教委による公立学校教員の勤務実態調査の件が載っていた。国も働き方改革ということを言っているわけだが、新聞によると、過労死ラインである月80時間以上の超過勤務が、中学校教員で72パーセント、小学校教員で52.4パーセントということになっている。1か月平均の時間外勤務は、中学校教員では105時間、小学校教員で86時間となっている。土日の勤務時間は、中学校教員で4時間23分、小学校教員で2時間30分となっている。</p> <p>教員の職場は、世間的にはブラックなイメージがかなり広がっている。このシステム</p> |

|     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|     | <p>の整備によって、どう改善しようとしているのか。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 事務局 | <p>出退勤管理システムについては、現在京都府が導入しているものと同じものを導入し、まず実態を掴み、十分調査した上で、今後の対策等について検討を進めていきたい。</p>                                                                                                                                                                                                                  |
| 委員  | <p>当委員会でも、決算や予算のときにも、教職員の過労死ラインに近いような勤務実態があるということを何度も指摘している。今から出退勤管理システムの導入によって実態を掴むということは、具体的な政策が後手後手に回ることになりかねない。京都府のシステムを導入しなくても、向日市教育委員会としてもっと斬新な取り組みができたのではないかと思う。</p> <p>クラブの関係で教職員がかなりオーバーワークをしているということもあり、クラブは完全に切り離して、生徒に向き合う時間を大切にするように切り替えようという考え方があれば、もう少し改善の方法も変わってきたのではないかと思うが、どうか。</p> |
| 事務局 | <p>部活動については、向日市としては以前から平日の休養日を1日設けるなど工夫をしてきている。最近では3中学校とも曜日まで決めて休養日を設けている。今でいう働き方改革は、既に始めていた。</p> <p>本市の中学校の部活動では、教職員が1人で持つのではなく複数制にしており、1人で負担することがないような取り組みを既に始めていた。今後もできることを工夫しながら考えていきたい。</p> <p>また、スポーツ庁からも部活動のガイドラインが出ており、京都府からも間もなく部活動のあり方についての指針が出されると聞いていることから、それらを踏まえた取り組みを考えていきたい。</p>      |
| 委員  | <p>本市ではないが、中学校を退職された方に聞くと、土日はほとんど休みがなかったとのことだった。そういった状況は向日市ではないと解釈してよいのか。</p>                                                                                                                                                                                                                         |
| 事務局 | <p>種類にもよるが、土日に活動している部活動はある。ただ、土日に試合がある場合などは月曜、火曜など平日に休みを取るといった工夫をしている。土日に部活動がないということではないが、バランスを考えて他の日に振り替えて休むなど、工夫して対応している。</p>                                                                                                                                                                       |
| 委員  | <p>出退勤管理システムで現状が把握できれば具体的な施策が打ち出されるということになると思うが、その具体策はいつごろ出されるのか。</p>                                                                                                                                                                                                                                 |
| 事務局 | <p>具体策については、いつ出すということを今申し上げることは難しい。まずは全体の実態を掴んでから、それに応じて個別の対策をどう取れるか、校長会とも協力しながら検討していきたい。</p>                                                                                                                                                                                                         |

|     |                                                                                                                                                                                                                                                               |
|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 委員  | <p>教職員のストレスチェック、面談、相談、医師派遣事業などは、多忙化に伴って新たに盛り込まれたわけだが、それらの特徴を説明してほしい。</p>                                                                                                                                                                                      |
| 事務局 | <p>ストレスチェックは、企業等でも全国的に行われているストレスチェックと同様のもので、全教職員を対象としている。医師面談については、労働安全衛生法が定めるところの義務を果たすものであり、８０時間以上の時間外勤務をした者には受けるよう声をかけ、１００時間以上になれば必ず受けるよう指示を出すものである。</p>                                                                                                   |
| 委員  | <p>一般質問で再質問ができなかったのでお聞きする。こういった状況を放置できないということは十分に認識されているが、財源の問題もあるのだと思う。国でも財務省と文部科学省が色々やり合っており、なかなか抜本的な対応は難しいとは思うが。一つ聞きたいのは、４パーセントの調整手当は、実態としてほしい何時間の残業手当に相当する分なのか。</p>                                                                                       |
| 事務局 | <p>細かい数字は出していないので正式ではないが、１日２時間程度だったように記憶している。</p>                                                                                                                                                                                                             |
| 事務局 | <p>今は資料がないが、昭和４０年頃に現在の文部科学省で調査した数字に基づいており、小中学校で若干違うが、月平均で１５～１６時間であったように記憶している。後ほど正確な資料でお答えさせていただきたい。</p>                                                                                                                                                      |
| 委員  | <p>月１５～１６時間ということであれば、役所で平均的なところをカバーしているので、それほど無茶苦茶な数字ではないのかもしれないが、学校現場の実態はますます大変になっているということを考えると、そのあたりの対応は、国・府が中心となって進めていただかなければならないことだと思う。</p> <p>千葉県では、県の予算で小中学校に補助職員を配置しているようである。今の向日市の状況では、市の単費でそういったことをやるというのは難しいと思うので、早め早めの対応を国・府に要望していただくようお願いしたい。</p> |
| 委員  | <p>調整手当は勤務実態と合っていない。もちろん超過勤務を減らすのが前提だが、今の実態からいえばあまりにも手当が少なすぎ、矛盾点である。遅くまで頑張っているのにこれだけかというようなことになっているが、それを反映させるようなシステムを作ることとは考えていないのか。</p>                                                                                                                      |
| 事務局 | <p>先ほども申し上げたとおり、調整手当は相当前の実態に基づいて設定されたものなので、現状に合わせてどうしていくかを、現在、国でも議論されている。その動向を注視していきたい。</p>                                                                                                                                                                   |

|     |                                                                                                                                   |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 委員  | <p>土日に部活動に出た場合は平日に休みを取っているとの回答だったが、教職員の場合、基本的には平日は授業が入っており、一般の行政職とは違って休みを取るのには難しいのではないかと思います。現場ではどのように調整されているのか。</p>              |
| 事務局 | <p>例としては、授業については生徒への影響があるのでカットできないが、土曜午前の4時間分を翌週や前週に取るといった形で振り替えることも考えられる。また、授業時間の空いた日に早めに帰ることもある。そのような形なので、丸ごと一日分休むのは難しいと思う。</p> |
| 委員  | <p>土日に部活動が入っている月は全日休養が全く取れないこともあるということか。</p>                                                                                      |
| 事務局 | <p>そうならないよう複数制としており、土曜に出る教員、日曜に出る教員といった形で個別に対応している。</p>                                                                           |
| 委員  | <p>最大で週1休ということもあるのか。丸一日休めるのは土日どちらかだけという状態なのか。</p>                                                                                 |
| 事務局 | <p>一年間ずっとそういった状況ではなく、全ての土日が埋まるということではない。</p>                                                                                      |
| 委員  | <p>部活動によって強弱や違いは出てくるし、忙しさも変わってくると思う。私自身の記憶では、部活動の顧問はさほど入れ替わっていなかったように思うのだが、向日市ではどうしているのか。ローテーションのようなことはしているのか。</p>                |
| 事務局 | <p>部活動の顧問は、毎年、校長が任命する。おおむねそのまま続くことが多いが、教員の数や部員数等を踏まえて決めており、必ず継続ということではないと聞いている。</p>                                               |
| 委員  | <p>根本的に人手が不足しているという感じを受ける。教員の定数の抜本的な拡充が必要になってくると思うのだが、国や府に対しての要請はどのように行われているのか。</p>                                               |
| 事務局 | <p>教職員の定数の要望については、京都府に直接出向いて実情を説明して要望しているほか、京都府市町村教育委員会連合会を通じて、また、全国の市町村教育委員会連合会など、色々なルートを通じて要望している。</p>                          |
| 委員  | <p>長らく要望されてきたと思うが、要望への反応や結果はどうか。</p>                                                                                              |
| 事務局 | <p>毎年、予算に反映されるわけだが、正直に申し上げれば、概算要求段階からかなり減</p>                                                                                     |

|     |                                                                                                                                           |
|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|     | <p>ってしまっており、国にはもっと頑張っていたきたいという思いはある。</p>                                                                                                  |
| 委員  | <p>学校施設個別計画策定事業について、建設された年数が違うので老朽具合もそれぞれ違うということになるわけだが、この策定事業には現場の校長や教職員も含めて作られるという解釈でよいのか。教育委員会だけが作るのではなく、現場の方も含めた形で作られるということでしょうか。</p> |
| 事務局 | <p>個別計画は、各施設の現状や老朽度合いを見て、それを今後こういった形で改修・修繕に反映していくのかということで、中長期的な費用や時期などを平均化するためのものなので、学校現場と話をすることは考えていない。</p>                              |
| 委員  | <p>特定の地域だけ一気に人数が増えて困っているということもある。個別計画では、増築、統廃合、校区の変更、弾力制度の拡大などまで含めて考えるのか。</p>                                                             |
| 事務局 | <p>個別計画では、主に安全上・機能上の問題や、財政状況、将来の児童数の増減などについて、ライフサイクルコストを考えていきたいと思っている。その中で色々な課題が出てくると思うが、策定の過程で考えていきたい。</p>                               |
| 委員  | <p>こういう形で考えているといった報告をいただくことはできるのか。</p>                                                                                                    |
| 事務局 | <p>報告できると考えている。</p>                                                                                                                       |
| 委員  | <p>それはいつごろを目途に考えているか。</p>                                                                                                                 |
| 事務局 | <p>平成30年度いっぱいを考えている。</p>                                                                                                                  |
| 委員  | <p>中長期的に、しっかり考えていただきたい。そして、今の枠にとらわれず、色々な案を出し合って、実情も踏まえて取り組んでいただくことを要望する。</p>                                                              |
| 委員  | <p>出退勤管理システムによる実態調査の結果はいつごろ出てくるのか。また、公表はされるのか。</p>                                                                                        |
| 事務局 | <p>出退勤管理システムの構築については、2市1町で足並みを揃えて進めていきたいと考えている。お尋ねいただいたことも含めて2市1町で協議した上で、今後検討していきたい。</p>                                                  |
| 委員  | <p>それでは、今のところはデータが出揃ったり公表されたりするのはいつになるのか分からないということでしょうか。</p>                                                                              |

|     |                                                                                                    |
|-----|----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事務局 | まずはシステムを導入して調査するということを考えているので、それを用いてどのように展開していくかは、今後、調査を進めていく中で検討していきたいと考えている。                     |
| 委員  | 出退勤管理システムは現在使われていないということなので、使用に関するルール、例えばいつカードを当てたり押したりするのかといったことについてはどうするのか。                      |
| 事務局 | ルールづくりをどうしていくかについては、他市町で先行して導入されているところもあり、京都府立学校でも導入されているので、そういったところでどうされているかなども調べて検討していきたいと考えている。 |
| 委員  | 参考資料の幼児教育振興費について確認したい。私立幼稚園教材費補助金の対象者は2歳児ということになるのか。誕生日の制限の撤廃があったとのことだが、その経緯を教えてほしい。               |
| 事務局 | 誕生日の関係では、「満3歳」を撤廃して、3歳を対象とすることとした。                                                                 |
| 委員  | 国庫補助金が昨年度より1千万円、府補助金も60万円ほど見込みが減らされているというのは、何か理由があるのか。                                             |
| 事務局 | 前年度より下がっているのは、北部開発の関係を少し見込み過ぎたことと、対象外の方、いわゆる超過者が多かったことによると考えている。                                   |
| 委員  | 国庫補助金、府補助金が下がっても、私立幼稚園の補助はしっかりできるのか。                                                               |
| 事務局 | 今年度の実績をもって予算を計上しているので、問題ない。                                                                        |
| 委員  | 幼稚園就園奨励補助金について。今回、保育所の保育料について、所得の上限撤廃という条例が提案されていたが、そのことは何か影響するのか。                                 |
| 事務局 | 別の制度であるため、影響はない。                                                                                   |
| 委員  | 保育料の改定が起こったときに引きずられて幼稚園就園奨励補助金も改定とはならないという理解でよいか。                                                  |
| 事務局 | 国の基準に基づいているので、影響は受けない。                                                                             |
| 委員  | 要保護、準要保護の児童・生徒の就学援助ということで、就学準備金については3月                                                             |

|     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|-----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|     | <p>に補助することを決めたとのことだが、他市においては色々な品目を上乗せして補助しているところもある。補助対象を拡大するという考えはないか。</p>                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 事務局 | <p>補助対象については、国基準に則って実施している。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 委員  | <p>議員調査資料で平成28年度の小中学校の不登校者が出ている。中学校のほうが断然多い。テレビで、内科的な疾患があって不登校になるケースもあるということで、きちんとした治療を施して登校に至ったという例が全国でもかなり紹介されているが、不登校の中で、そういった疾患によるものについてはきちんと対処されているか。また、それによって実際に登校に至ったようなケースはあるか。</p>                                                                                                                                            |
| 事務局 | <p>まず、不登校の定義については、年間30日以上欠席。ただし、病気によるもの、経済的な理由によるものは除くとされている。今、議員がおっしゃった疾患があるかどうかについて、医療機関との連携を積極的に行っているというのが実態である。そこで疾患と診断された場合については、不登校から除いている。疾患があるかどうかに関わらず、その子、あるいはその家族を支援することが一番大事であり、個々それぞれで抱える背景が変わってくるので、それに応じた必要な支援をしているところである。</p> <p>28年度中に学校に復帰した不登校生徒が9名いるが、それについては、適応指導教室や、先ほど申し上げたように、医療機関との連携を積極的に行った結果であると考えている。</p> |
| 委員  | <p>適応指導教室について、一般質問での常盤議員の質問への回答では、平日のうち3日ほど開かれているとのことだったが、保護者からは毎日開いてほしいという声が出ている。教育委員会としては登校できる日を確保するというのでそうしているとのことだったが、その方針を決めるときに、児童本人あるいは保護者の意見を聞いたのか。</p>                                                                                                                                                                        |
| 事務局 | <p>適応指導教室に入室する際には、最終的には保護者の判断ということにはなるが、子どもだけを適応指導教室に通室させるということではなく、必ず声かけをする。何について声かけをするかという、教室相談事業の一つである、保護者を対象とした来所相談に来ていただくよう声をかけている。多くの保護者がこの来所相談に定期的に、1か月に1回は相談に来られている。そこで十分に保護者の声を聞かせていただいている。来所相談を受けるのは臨床心理の専門家であり、そのアセスメントに沿って、その子に応じた支援を指導する。また、学校に週に1回、午後から通うという児童・生徒もいるので、そういったところと連携しながら支援しているという状況である。</p>                |
| 委員  | <p>毎日開いてほしいという声があるのは確かだ。休日は子どもに張り付かなければならず、週に3日ほどしか空けられないと働きに出るのも難しくなるというご意見も聞いている。そうすると、市のやりかたとしては、毎日開く中で、学校に通えるような子は適</p>                                                                                                                                                                                                            |



|     |                                                                                                                                                                                        |
|-----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|     | <p>応指導教室の時間を外して個別に行ってもらったらよいのではないと思うが、どうか。</p>                                                                                                                                         |
| 事務局 | <p>本会議での答弁のとおり、現在、天文館の一室をお借りしており、ほかのところを急に見つけるということは難しい状況にある。予算とも関連することから、保護者のニーズも踏まえて、平成30年度中に考えたい。</p>                                                                               |
| 委員  | <p>休みのときには保護者の有志で集まる場を作られ、公民館を転々とされているという話を聞いた。市として一定の場所で開けるようなフォローはできないものか。</p>                                                                                                       |
| 事務局 | <p>先ほどお答えしたように、現在、天文館の一室で開いている。月火は休館で、水木金で開いている。活動の場所を確実に確保するということを今すぐに決断するのは難しい。要望の中には指導員の増員という要望もあった。子どもたちにとって一番良い支援、今よりもニーズに応えられるような支援も含め、先ほど申し上げたとおり、平成30年度中に検討していきたいと考えている。</p>   |
| 委員  | <p>議員調査資料によると、学力診断テストが29年度もかなり行われている。全国学力学習状況調査はこの表には含まれていないと思うが、こういった学力診断テストは子どもたちの実際の評価基準にされているのか。</p>                                                                               |
| 事務局 | <p>評価の基準にはしていない。授業との関わりの中での調査であり、参考として、指導の手助けとして使っている。</p>                                                                                                                             |
| 委員  | <p>診断テスト以外に、児童・生徒に対して、ほかにどのようなテストを実施されているのか。</p>                                                                                                                                       |
| 事務局 | <p>小学校では単元が終わった時点での単元テスト、学期のまとめのテスト。中学校では中間テスト、期末テストが、この表には載っていない、いわゆる評価テストということになる。</p>                                                                                               |
| 委員  | <p>道徳が評価対象にされるようになるとのことだが、客観的な評価基準が実際に設けられるのかという疑問がある。今後の問題として、先生方もお悩みのことと思うが、教育委員会としてこうすると考えていることがあれば披露していただきたい。</p>                                                                  |
| 事務局 | <p>道徳の評価化を見据えた一つの視点としては、評価者である教員がどのような評価をするのかという視点がある。それについては、昨年度から、道徳の評価はこのように見るという研修を実施してきている。そこで評価はこのようにするという共通化、共有化ということがまず一つある。</p> <p>そして、実際に評価をどのようにするかだが、道徳観については、国語や数学のよう</p> |

|     |                                                                                                                                                                                                                             |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|     | <p>に点数をつける評価ではなく、表記による評価をすることになることから、どのような表記のしかたをするのかといったことをこれからも研究していかなければならないのだが、子どもが道徳で学習している項目や道徳的価値についてどのような反応をした、どのような考えがあった、どのようにしているということについて、年間を通じて、子どもが書いたものや、日頃観察している授業での様子、発言内容などを貯めていって教員が評価するという方法を考えている。</p> |
| 委員  | <p>道徳の評価化には反対だが、やるとすれば、非常に微妙な部分であり、よほどきちんと納得のいくものに仕上げていただかなければならない。その点、努力をお願いしたい。</p>                                                                                                                                       |
| 委員  | <p>学校給食管理費のところで聞きたい。中学校で4, 124万円の予算が上がっているが、その想定を教えてほしい。</p>                                                                                                                                                                |
| 事務局 | <p>今回予算に上げたものは、年度当初、近々に必要になるものを予算として上げている。中身としては、給食調理業務の委託料が3, 600万円、公会計に係る費用が約500万円、その他残りが雑費用、研修費などである。</p> <p>今後、実際に運営するに当たって必要になる経費は、光熱水費など色々出てくるかと思う。それについては、建物の整備と合わせて現在精査しており、年度途中に補正という形でお願いしたいと考えている。</p>           |
| 委員  | <p>国や府も推し進めていることだと思うが、これをするによって国や府からお金は入ってくるのか。何か議論はされているのか。</p>                                                                                                                                                            |
| 事務局 | <p>制度上、公立学校で実施する分については、特に補助などはない。きちんと運営できるような人の支援などを京都府に対して要望しているが、お金の関係の要望は、現在は特にしていない。</p>                                                                                                                                |
| 委員  | <p>少ない財源の中で市独自でやっていくということはなかなか難しいと思うので、要求すべきことは要求していただくとことを要望したい。</p> <p>受け入れ先については一般質問でも出ていたが、その現状をもう一度教えてほしい。</p>                                                                                                         |
| 事務局 | <p>受け入れ校の配膳室については、今年度設計が終わり、来年度、夏休みを中心に工事にかかれるように計画している。</p>                                                                                                                                                                |
| 委員  | <p>受け入れ先の予算は、4億7千万円のうちのどのくらいなのか。</p>                                                                                                                                                                                        |
| 事務局 | <p>約8, 600万円を見込んでいる。</p>                                                                                                                                                                                                    |

|     |                                                                                                                                                                                                                                               |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 委員  | 勝山中学校、寺戸中学校合わせて8, 600万円ということか。                                                                                                                                                                                                                |
| 事務局 | 勝山中学校、寺戸中学校、また、西ノ岡中学校にも配膳室を設置するので、それも含んでいる。                                                                                                                                                                                                   |
| 委員  | 京都市内のある小学校の複数の先生から聞いたのだが、毎日通ってくる子が明らかに痩せてきているので、どうしたのかと聞いたところ、朝食を食べてこず、夕食もスナック等のお菓子で済ませていると答えが返ってきたことがあったとのことである。そういう子どもたちも現実にいるということで、向日市ではまだそこまでの子はいないのかもしれないが、そういったことへの考えや対策などがあれば教えてほしい。                                                  |
| 事務局 | 児童・生徒の日常の様子については、健康管理も当然だが、児童虐待等の面から、教職員に常日頃から様子をきっちり見てもらい、変わったことがあれば相談してもらった上で、どういう対応をするかは教育委員会全体で対応している。貧困や虐待などの面は個別に連絡が来るので、その都度、具体的に対応していくよう心掛けている。                                                                                       |
| 委員  | 児童・生徒の健康診断はどのようなスタンスで実施されているか。                                                                                                                                                                                                                |
| 事務局 | <p>小学校では毎日朝の健康観察の時間に、中学校では朝のホームルームで、児童・生徒一人ひとりを見ている。その中で状況を把握し、養護教諭に文書などで伝えている。</p> <p>そして、健康診断は、身長、体重など色々な項目がある。身長など年に1回測るものもあれば、体重など学期に1回量るものもあり、項目によって違うのだが、そういった定期的な診断と、先ほど申し上げた日常の健康観察で児童・生徒の様子を把握している。その状況は、担任と養護教諭が把握するシステムになっている。</p> |
| 委員  | <p>京都市内でそういうことがあったということで、情報交換をしていただき、対応していただくようお願いしたい。</p> <p>もう一点、中学校学校給食事業を今後推し進めていかれるわけだが、万が一、食中毒や火災で給食が出せないという場合はこうするという取り決めはあるのか。</p>                                                                                                    |
| 事務局 | 緊急事態にどうするかということについては、現時点ではまだまとめきれていない。どうしていくかについては、他市の状況や、学校長とも相談しながら考えていく必要があると思っているが、現時点ではまだご説明できない。                                                                                                                                        |
| 委員  | 最悪、児童・生徒を自宅に帰すということは考えているのか。                                                                                                                                                                                                                  |
| 事務局 | 食中毒については、態様による。クラス全体、学年全体ということになれば、医療機関や保健所と相談する必要もある。その都度、個別具体的な状況をみて判断ということ                                                                                                                                                                 |

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      | になる。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 委員   | 仮に食中毒が発生したとして、長ければ1週間くらい業務停止命令が出るということになると、長期にわたって給食が出せないという事態もあり得る。そうした場合に、何らかの形で、例えばパンと牛乳や、コンビニのおにぎりなどを提供することについて、事前に事業者と提携しておくということも必要ではないかと思うが、どうか。                                                                                                                                                                                                                   |
| 事務局  | <p>全国の他市町村の給食センターで食中毒が発生した場合の対応を見ていると、長期間にわたる場合は家庭から弁当を持ってきてもらうという対応をしている。それはなぜかという、牛乳、パン、おにぎりなどは、緊急で1日や2日は代用可能なのだが、長期間にわたると、子どもの栄養状態にも関わるので、緊急食を長期間代用するというのは現実的な手段ではないと考えられる。</p> <p>そういったことがないように、十分に注意を払って進めていきたい。</p>                                                                                                                                                 |
| 委員   | (家庭から弁当を) どうしても持ってこれない子についてはどう考えるか。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 事務局  | それについては、今後検討していきたい。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 委員   | 学校給食については、6つの小学校で、同一の会社が2校ずつ運営されている。今後、中学校の給食についても、この3社が向日市の中で調理業務をしているということで優先されるということはあるのか。                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 事務局  | 事業者選定については公募を考えているので、特に優先等は考えていない。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 副委員長 | <p>長年の市民の願いであった中学校給食が叶う目途がたち、心から感謝する。</p> <p>成人式で気になることがあった。新成人が晴れ着を着てきちんと並んでいるにも関わらず、イオンの各店舗から「店の前に立たないでください。」と言われていることがあった。確かに店の前だが、そこしか並ぶところがない。市役所と市民会館が一体になった新庁舎が待ち遠しいが、来年、再来年の成人式はやはりイオンをお借りするわけで、借りられること自体はありがたいだが、各店舗にも事前に事情を話してお願いしておくのがよいのではないか。温かく新成人を迎えられるようお願いしたい。若者が集まって同窓会のように楽しく雑談しているところを監督するというような目で見ないようにしていただきたい。</p> <p>&lt;休憩 11時10分～11時20分&gt;</p> |
| 事務局  | 先ほどの働き方改革の質問にあった、教職員の時間外勤務については、昭和41年度に現在の文部科学省で調査され、当時の1週間の平均時間数が中学校では2時間半とい                                                                                                                                                                                                                                                                                             |

|     |                                                                                                                                                                                                                                                      |
|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|     | <p>うことなので、月に直すと１０時間ちょっとくらいになるかと思う。先ほど１５～１６時間程度と申し上げたが、訂正させていただく。</p>                                                                                                                                                                                 |
| 委員  | <p>大阪市の貧困の実態調査では、１日で食べるのが学校給食だけという子どももいるということが明らかになっている。朝きちんと食べてきている子もいるが、栄養摂取の上できちんと食べているのかという点での実態把握についてはどうか。</p>                                                                                                                                  |
| 事務局 | <p>先ほど話に出た全国学習状況調査の中で「朝食を食べているか」という質問肢があり、その数字で見ていると、毎年３パーセント前後が「食べていないことがある」と答えている。年によって違うとは思いますが、数名は朝食を食べていない子が学校にいるということかと思う。毎日食べているかどうかについては、実態は把握できていない。小学校でいう朝の健康観察の項目の中で朝食を食べたかという項目もあり、手を挙げにくい子や様子のおかしい子については、個別に担任が聞き取ることから把握している状況である。</p> |
| 委員  | <p>主な食事が学校給食だけという児童・生徒はなくしていただきたい。また、状況は十分に掴んでいただきたい。</p> <p>各学校に校医がおられるが、校医が学校に来られてどういった検診をされているか。</p>                                                                                                                                              |
| 事務局 | <p>校医については、乙訓医師会に委託している。内科、眼科、歯科など、検査項目は決まっているので、日程調整をして各学校に来ていただき、それぞれ検診していただいている。</p>                                                                                                                                                              |
| 委員  | <p>それで治療を要するとなった児童・生徒が出た場合、当然、通院ということになるわけだが、きちんと通院しているのか、また、治療が完全に終わっているのかということ把握しているのか。疾病を持ったままで学校に行くのは辛い。実態はどうか。</p>                                                                                                                              |
| 事務局 | <p>健康指導のときに要指導や要治療といった診断が出た場合、養護教諭が学校からのお便りを出している。そのお便りは返ってくることになっている。つまり、治療済みという報告書をもって治療が完了したことが分かるので、それが出なかった場合には、養護教諭から担任を通じて家庭にもう一度文書を出すということを行っている。</p>                                                                                        |
| 委員  | <p>要治療という児童・生徒にはそういった連絡方法できちんとした治療がなせるよう努力しているということだと思うが、完治するまで見届けるという実態ではないということか。</p>                                                                                                                                                              |
| 事務局 | <p>声はかけるが、最終的には親が連れて行くかどうかということになる。何度か勧めはするが、１年遅れになったりする家庭も実際にはある。ただ、都度都度、声をかけるよ</p>                                                                                                                                                                 |

|     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|     | うにはしている。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 委員  | <p>中学生の間でも、若くして歯がガタガタになることがかなりみられる。それは、十分な治療が行われていない結果だと思う。少なくとも50歳くらいまでは自分の歯が保てるということになってほしいので、そういう点では気をつけていただきたい。</p> <p>留守家庭児童会について、私たちは学童保育と言っているのだが、第2留守家庭児童会ではかなり離れたところで指導されているという状況がある。第4留守家庭児童会の場合でも、体育館の上の部屋を利用しているということで、学童保育という名前に値するような形に、果たしてなっているだろうか。もうちょっときちんとした体系で、責任を持って保育を行うということが必要だと思う。</p> <p>そういった意味で、整備計画をきちんと立てて、少なくとも離れた場所で指導するというのではなく、同じ場所で異年齢が一緒にやっていくようなことが学童保育のあり方だと思う。きちんとした整備計画を早く作ってほしいが、どうか。</p> |
| 事務局 | 留守家庭児童会については、要件を満たす児童は全て受け入れており、一部学校施設を活用して運営している。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 委員  | 一緒に施設に入れることができず、満杯なので、学校の施設を借りなければならないという状況である。長年放置することが子どもたちにとって良いことなのかを十分に考えていただく必要がある。今後の児童・生徒の推移を見ていくということで済まされるのか。今の実態そのものを改善していただきたい。そのための整備計画をきちんと立てられないのかということをお聞きしている。                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 事務局 | 新年度の入会予定児童数は、受付終了後の時点で、前年度とほぼ同じ状況であることから、引き続き学校施設を活用して運営する。施設整備に関しては、学校施設全体も含めて、児童数の推移も掴みながら、総合的に考えていきたい。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 委員  | <p>学校施設を活用するのは一つの方法だが、やはり児童が一堂に施設にいるということを保証していくという立場でぜひ整備計画を立てていただきたい。それは意見として言うておく。</p> <p>歴まちの関係で、史跡長岡宮の大極殿回廊地区の保全事業、文化財発掘の業務もされている。情報発信を大いに図るということを政策として述べられているが、具体的な新年度の取り組みも含め、説明をお願いしたい。</p>                                                                                                                                                                                                                                 |
| 事務局 | 情報発信については、文化財関係だけではなく、市全体として、ホームページの見直し、内容更新などを実施している。手話で向日市を紹介する動画の中に文化財や歴史的資源をバックに入れてもらったり、情報誌の中で市内の歴史・文化遺産を紹介したりといったことを市全体として考え、また、小さなコンテンツであっても複数を複合するこ                                                                                                                                                                                                                                                                         |

|     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|     | <p>とによって事業規模を大きくしていこうといった考え方で進めている。</p> <p>文化財では、朝堂院公園で引き続き情報を発信しているところであり、来年度事業の大極殿公園の整備においても、案内板の設置などを、地域振興、観光振興にも繋がる施策として実施していきたいと考えている。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 委員  | <p>大切な事業だと思うので、ぜひ精力的に取り組んでいただくようお願いしたい。</p> <p>もう一点、文化資料館の特徴的な取り組みを説明していただきたい。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 事務局 | <p>文化資料館では、主要事業調書に挙げているように、本市の名前の起源である向日神社の特別展を考えている。向日神社については、市民の方でよくご存じの方もいるが、新しく本市に来られる方もたくさんいらっしゃることから、本市の名前の元となった、本市の歴史と文化を代表する存在としての向日神社の文化財や歴史を知っていただく機会になるのではないかと考えて計画した。</p> <p>もう一つは、古代衣裳を活用した取り組みということで、常設展示室で展開している史跡・長岡京跡に関する内容により親しみを持っていただくため、古代衣裳を着用して、さらに身近に感じていただける事業を考えている。その事業の中で、直接的に衣裳を作ったり、あるいは催しを開催する側として参画していただいたりする市民の方を増やしていくことも含めた事業にしていければと考えている。</p>                                                                                                    |
| 委員  | <p>文化資料館の記念歴史ウォークで「向日神社ゆかりの地を訪ねて」ということだが、歩くコースを説明していただきたい。また、現地見学会として「建造物の見学会」となっているが、いつもは見られないこういうところを見られるといったことがあれば、宣伝していただきたい。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 事務局 | <p>特別展の関連事業として開催するウォークのコースとして、向日神社の関連する場所としては上植野には御旅所があり、寺戸には列慶という場所がある。</p> <p>また、向日神社の起源、縁起の問題になるが、どういうところから向日神社の神様が鎮座したかということにちなむ場所として、長岡京市の角宮神社、あるいは京都市の灰方の大歳神社、そして、多分行けないとは思いますが金蔵寺などもある。そういった関連する地域、あるいは市内に点在するところを歩くことを考えている。</p> <p>建造物については、今のところ全く資料館の中だけでの案だが、重要文化財である本殿はふだんは覆屋の中にあり、ご祈祷をお願いしたような方しか直接ご覧になったことはないと思う。拝殿のところまで入らせていただき、本殿を拝観させていただくような機会、あるいは下のほうにある六人部家住宅なども見学できればと考えている。</p> <p>また、社殿13棟は登録有形文化財に指定されているため、その一つひとつを、解説を交えてゆっくり見ていただくようなものにできればと思っている。</p> |
| 委員  | <p>古代衣裳着用体験を実施することだが、衣裳は主要事業調書に載っている写真の</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |

|      |                                                                                                                                                                                                                    |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      | 分だけか。                                                                                                                                                                                                              |
| 事務局  | <p>主要事業調書に載っているのは一部であり、ほかにも着用していただくことのできる衣裳がある。色々種類があるので、取り揃えれば30着くらいはこれまでの事業の中でボランティアの方に作っていただいた。</p>                                                                                                             |
| 委員   | <p>着用体験の具体的な場はどのようなになるのか聞かせてほしい。</p>                                                                                                                                                                               |
| 事務局  | <p>これまでも向日市まつりの中で大極殿衣裳行列というものがあり、その中で着用する体験をしていただくことができています。年1回だけでは機会としては少ないのではないかとということで、もう少し数を増やして、年に数回、参加者を募り、ボランティアが着用のお手伝いをして、文化資料館の中や、少し外を歩いていただいたり、写真を撮っていただく中で、長岡京跡のある向日市ということをより知っていただく機会になればと考えています。</p> |
| 委員   | <p>一般質問の中で、長尾議員が、向日市らしいイメージの婚姻届をということで質問を出していた。これは提案だが、ちょうど回廊地区も整備されるということで、古代衣裳を着て結婚式をしていただければ、今後、向日市で新婚生活をスタートされる方々にとっては思い出になるのではないかと。他市の方も、向日市に來ればこんな結婚式ができるということもあるのではないかと。と思うが、どうか。</p>                       |
| 事務局  | <p>この事業は、文化資料館の職員と、文化資料館に毎週、古代衣裳の製作やメンテナンスをしに来てくださっているボランティアの方々と一緒に作り上げていこうということで、相談しながら進めようとしている。議員ご提案の件も、ボランティアの方々にお伝えし、共に考えていく一つの案としたいと思う。</p>                                                                  |
| 委員   | <p>観光政策の中にあって一つの目玉になると思う。ぜひ検討いただくようお願いしたい。</p>                                                                                                                                                                     |
| 副委員長 | <p>向日神社にきれいな湧き水の井戸があるが、白鳳の泉は通行者が空き缶を放り込んだり、たくさん葉っぱが入ったりして、汚いままになっている。白鳳の泉もセットにして、向日市はとて水が清いところだということで、海外からお越しの方も訪れてもらえるように、一緒に整備をしていただくととてもありがたいと思うので、要望しておく。</p>                                                  |
| 委員   | <p>特別展記念現地見学会について、まだ資料館内で考えているだけのことだったが、これについては向日神社の内諾は取っていないのか。</p>                                                                                                                                               |
| 事務局  | <p>このような形で平成30年秋に展示をさせていただきますということは申し上げており、ご協力いただけるよう了承いただいている。</p>                                                                                                                                                |



|     |                                                                                                                                                                                                                        |
|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 委員  | <p>現地見学会で社殿を見せていただくことについても了承を取られているのか。</p>                                                                                                                                                                             |
| 事務局 | <p>どこをどのように見学させていただきたいかというところまではまだお話ししていないが、以前、同種の事業をしてご協力をいただいたことがあるので、特別展開連事業としてお願いすれば、おそらくご協力いただけるのではないかとということも含めて、今申し上げた。</p>                                                                                      |
| 委員  | <p>古代衣裳については、先ほど福田委員がおっしゃったようにウエディングプランという話も考えられると思う。「歴史を生かし、活力と魅力あるまちづくり」ということで打ち出されているが、これと観光プランとの結びつきを総合的に考えられるような部署間の連携を取っているとか、市長部局で何か調整をしているということはあるか。</p>                                                       |
| 事務局 | <p>観光部局との連携ということについては、観光的な目的で催されているウォークに資料館として協力したり、あるいは、案内をするボランティアのグループが資料館にあり、その方々が、観光部局が企画するウォークに随行して案内をしたりするなど、連携を取りながら進めている状況がある。</p> <p>古代衣裳に関しては、直接的に観光部局と連携して何かということでは、今のところまだ動いてはいない。</p>                    |
| 委員  | <p>京都市内であれば、舞妓さんの恰好をして市内散策をするということが最近見受けられるが、ああいった形での利用や、色々なタイプの衣裳を用意されているということなので、当時の結婚式の様式などを研究された上で、それをウエディングプランとして向日市でできるように考えていくというところまでは考えていないということか。</p>                                                        |
| 事務局 | <p>文化資料館としては、古代衣裳に関しては、従来は大極殿衣裳行列の年1回だけだったところをもう少し定期的に文化資料館でできないかということで、あくまでも文化資料館において、市民の方々が長岡京をより深く知る機会、あるいは、市外から文化資料館に来られた来訪者の方々が展示だけではなく体験的に向日市を知っていただく機会になればと思う。そして、市民の方々と来訪者の方々の交流の場とするためのツールとして、古代衣裳を考えている。</p> |
| 委員  | <p>教育助成費で、外国人指導助手の配置とある。予算書でいくと業務委託料に当たるのかと思うが、今、何名おられ、何名ぐらい拡大しようと考えているのか。</p>                                                                                                                                         |
| 事務局 | <p>今年度は小学校3名、中学校1名である。新年度予算で、小学校4名、中学校は現状どおり1名としてお願いしている。</p>                                                                                                                                                          |

|     |                                                                                                                                                                                                     |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 委員  | 業務委託料が1, 100万円から1, 600万円に上がっているが、500万円で1名増やすという理解でよいのか。                                                                                                                                             |
| 事務局 | 5名でお願いした場合の近隣の見積もり等を取った場合の近似値としている。内訳は様々だが、より配置が叶うような形で予算で計上している。500万円が必ず1名分ぴったりということではなく、全体の中でこの予算でお願いしている。                                                                                        |
| 委員  | 次期学習指導要領の改定が2020年度にあるが、そこでの準備に向けてどんどん拡大して進めていっているということか。                                                                                                                                            |
| 事務局 | 新しい学習指導要領に対応して、来年度は移行期に入る。新しい学習指導要領で行う3、4年生の外国語活動、5、6年生の英語科に合わせ、来年度は3、4年生の外国語活動が15時間入る。5、6年生は今の外国語活動にプラス15時間、時間数が増えることから、それに対応して、来年度については、その分、指導を充実させられるよう、1人充てられるように考えたところである。その次の年度については、まだ分からない。 |
| 委員  | 国の方針というところで、国や府からはお金は下りてこないのか。何か議論があれば教えてほしい。                                                                                                                                                       |
| 事務局 | お金というよりも指導面で、実際の学校現場では、どのように指導するかということや、内容をどうするかといったことを不安がっている。京都府において、例えば英語を充実させるような研究があれば、そういうものを取り入れ、学校の授業で担任プラスもう1名で研究ができるような配置をするなど、総合的なことを見据えた取り組みをされていくとうかがっているので、そういったものを活用しながら取り組んでいきたい。   |
| 委員  | ぜひそういったものを活用していただき、変わっていくということで現場が混乱しないように、また、子どもたちにとってプラスになるような形で進めていっていただきたいので、その点を要望したい。                                                                                                         |
| 委員  | 文化の拠点という意味では、図書館も向日市の子どもたちにとって重要な役割を果たしている。参考資料に色々書かれているが、もう少し噛み砕いて、特徴を含めて説明をお願いしたい。                                                                                                                |
| 事務局 | 平成30年度については、平成29年度も同様に努めてきたことだが、図書館の資料がだいぶ古くなってきており、数はたくさん置いているが、何より新鮮な資料というのが重要と考えているため、古い資料を調査し、必要であればどんどん更新していきたいと考えている。<br>読書推進事業については、これまでやってきたものをより一層利用していただけるよ                               |

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      | <p>うに工夫して、例えばおはなし会にもっとたくさんの方に参加していただくにはどのようにすればよいかなど、具体的にそれぞれの担当が市民の皆様のために何ができるか、何が求められているかを考えながら、今できることをどんどん打ち出していきたいと考えている。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 委員   | <p>図書館の非正規職員の方は何名ぐらいおられるのか。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 事務局  | <p>アルバイト（臨時職員）については、時間単位のアルバイトになる。最短で4時間、最長で6時間で、その方々が都合の合うときにローテーションで来てもらっている。人数は多いが、輪切りにすると1日3人ぐらいになる。登録者の数は約20人ぐらいである。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 副委員長 | <p>図書館で色々な講座をされており、他市からもたくさん参加されるが、パイプいすがすごくしんどく、痛い。お尻が痛いから途中で帰るというお年寄りもいる。せっかく遠くからも来てくださっているのに、いすをもう少しましなものにさせていただくよう要望したい。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 委員   | <p>古代衣裳の主要事業調書の説明のところに長岡京時代とあるが、長岡京時代という括りはあるのか。そういう時代区分を提案していくという意図も含まれているのか。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 事務局  | <p>一般的に、日本の歴史の上で、長岡京時代という時代区分の概念はない。この主要事業調書も、そのことに鑑みて書くならば、長岡京跡があった時代とか、長岡京の時代とか、古代の都・長岡京の時代と丁寧に書くべきだった。あまり「の」がたくさん入ると説明的に受け取られるかと思い、向日市民の方であれば長岡京時代と書いたほうが分かりよいのではないかということで、「の」を抜いて表記したものである。</p> <p>長い日本の歴史の中で、全国的に長岡京時代というものを打ち立てるというのはあまり現実的ではないと思う。あまりお国自慢的なことをするとマイナスイメージで取られるのではないかということもあると思うが、乙訓地域、あるいは向日市の歴史の中においては、長岡京があった時代は大変比重が大きい時代であることは言うまでもなく、その時代にここに都があったということを広く市民の方に伝えていく仕事をしなければならんと思っているところである。</p> |
| 副委員長 | <p>お国自慢が足りな過ぎると思う。せっかく向日市の公園なのに北部では洛西つつじ公園となっていたりする。なぜ物集女と書かないのかと思う。隣の長岡京市では、新しい道ができると市長が「秀吉・ガラシャ街道」と名付けたりして、たくさんの来賓の前でお国自慢を言う。寺戸にも寺戸城があったとか色々あるのに、お国自慢が謙虚すぎる。ゆるキャラ一つなく、まちおこしに対して情熱がなく、最初から諦めているように思う。誰も来ないムラで良いという古い体質ではなく、必ず行きたいまちになるように、少し</p>                                                                                                                                                                            |

|      |                                                                                                                                                                                                                                |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      | でも可能性があれば、誇張してでもよいので、色々な知恵を出して向日市の名を広めてほしい。                                                                                                                                                                                    |
| 委員   | 議会だより編集委員で、村田議員とともに、表紙の写真用に向日区事務所に鎧の写真を撮らせてもらいに行ったのだが、見せていただいたかぎり、修繕しなければならない状態であるように見受けられた。おそらく市の所有物ではないと思うのだが、そういった文化財の補修や展示利用の計画はあるのか教えていただきたい。                                                                             |
| 事務局  | 向日区の鎧については、昭和50年代に向日市の補助金で修繕をしていただいたところである。市内の文化財への補助金については、京都府教育委員会の補助金、京都府の補助金、向日市の補助金、国の重要文化財の補助金もあるが、所有者負担が伴うので、計画と総額の提示が必要となってくる。毎年数回、補助金の案内を各区、文化財所有者、社寺に送付している。その中で修繕の希望、計画を持っておられる方について、ヒアリング調査を行い、補助対象になるかどうかを確認している。 |
| 副委員長 | グランマークシティの映像を見に行くと、とても素晴らしく、ここに住まねばと思うような映像だった。そういう素敵な映像を全国に流してほしい。成人式については、もうすぐ18歳で成人ということになるので、人数が増える。会場に入れなくなっては困るので、そのことも今から対策を立てていただくようお願いしたい。                                                                            |
| 委員   | 勝山中学校の監査が今年あったが、教育相談、不登校、ひきこもり、ネグレクトが増加傾向にあると書かれている。他の中学校も同じ傾向なのか。また、増加の要因は掴んでいるか。                                                                                                                                             |
| 事務局  | <p>中学校名を出していただいたが、要因について、この学校に集中しているということはない。その学校で昨年度多かったのは事実だが、なぜ多かったかということについては、生徒一人ひとりの要因、背景が違うので、その結果について分析することは難しい。</p> <p>増加の傾向については、残念ながら、平成26年度から、どの学校が上がって下がってということではなく、向日市全体として増加傾向にある。</p>                          |
| 委員   | お聞きしたいのは、勝山中学校がどうということではなく、今年監査が入ったのが勝山中学校ということだけで出てきているだけだと思うのだが、他の学校も同様なのかということと、平成26年度から毎年増加の傾向にあるということなので、その増加傾向の要因が何なのかを掴んでいるかということだ。                                                                                     |
| 事務局  | 勝山中学校以外の学校については、増加の幅は違うが、残念ながら、ともに増加している状況である。その要因については、先ほどお答えしたとおり、個別の状況があるので、具体の話をしなければならないと思うが、例えば、他地域から、小学校時代に不登                                                                                                           |

|     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|     | <p>校になってしまい、心機一転ということで向日市に引っ越してこられる家庭もある。中学校に入って、突然、過去の人間関係がフラッシュバックしてしまうということもある。思春期に入って、友達の見え方や言葉をかけられたりすることが、全くいやなことをされているわけではないが気になってしまい、集団の中で緊張してしまうということもある。そういった要因が重なり合っている子もいる。そこが増加に繋がっているのではないかと考えている。</p>                                                                                                      |
| 委員  | <p>不登校になる要因は確かに個々それぞれで、バラバラで分からないと思うが、平成26年度から増えている、そのなぜ増えたかということについては、何か分析等はしているのか。</p>                                                                                                                                                                                                                                  |
| 事務局 | <p>平成25年度に最も減っている。平成25年度を底にV字になっているということだが、減ったから良い、増えたから悪いという分析はしていない。そのときに子どもたちが何に苦しんでいるか、ご家族は何を求められているかということについて、それぞれの家庭の状況は把握しているが、なぜ増えたかについては、今お答えすることはできない。</p>                                                                                                                                                      |
| 委員  | <p>学童保育について、現況では別の建物を借りて運営しているという状況がある。建物それぞれの明確な収容基準のようなものはあるか。</p>                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 事務局 | <p>面積基準については、厚生労働省の基準があり、その基準に準じて市で定めた条例に基づき、1人当たり1.65平方メートルとしている。</p>                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 委員  | <p>その面積を確保するために他の教室等を借りているということになると思うが、場所によっては、全員収容すると、床の小さな柵目1つに1人が入るというような状態のところもある。晴れの日なら外で遊んだりして人の密度が減るので気にならないのかもしれないが、例えば雨が降っている日や災害など、何らかの形で1か所に集まらなければならないときなどに、この面積で良いのかということがある。</p> <p>また、一般的に、他の施設を借りるということは、基本的には緊急的な対応だと思う。学校や保育所では、よその施設を借りて運営するということはあまり考えられない。なぜ学童だけがこの状態を何年も継続できるのかということについてうかがいたい。</p> |
| 事務局 | <p>現在のところ、児童会の本体施設だけでは面積基準を満たせないということで、学校施設を活用する中で基準面積に対応している。現在、厚生労働省の基準については、入会児童数等の状況を見ながら、経過措置ということで対応しているところである。</p>                                                                                                                                                                                                 |
| 委員  | <p>経過措置とのことだが、学童の入会人数はほとんど横ばいと聞いている。夏季、冬季には一時的に増加する傾向もあまり変わらないとのことである。そういった中で、いわ</p>                                                                                                                                                                                                                                      |

|     |                                                                                                                                                      |
|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|     | <p>ゆる経過措置、緊急措置がいつまで続くのかということについて、何か見通しはあるのか。</p>                                                                                                     |
| 事務局 | <p>現在のところ、明確に何年度までということはないが、全体の児童数を推計する中で、入会児童数についても見通しを立てていき、総合的に、学校施設も含めて考えていきたい。</p>                                                              |
| 委員  | <p>経過措置として他の施設を使えるということについて、期間の定めなどは全く考えていないということか。</p>                                                                                              |
| 事務局 | <p>学校施設を活用していることから、将来的な児童・生徒数の推移も見ながら、教室そのものの計画も必要になってくるため、その中で、入会児童数の推移も見ながら検討しているところである。</p>                                                       |
| 委員  | <p>厚生労働省が基準を定めており、その基準に従っているとのことだが、どう考えても根本的におかしい状態であると思う。市で増築も含めた政策をしっかりと持ち、お金や予算のこともあるのであれば、国や府に要望を出すべきだと思うが、その点についてはどうか。</p>                      |
| 事務局 | <p>施設整備については、運営についても同様だが、子ども子育て支援の交付金が該当し、本市においても現在活用しているところである。その交付金の基準額の増額等は、全国市長会等を通じて要望している。</p>                                                 |
| 委員  | <p>学童保育の指導員の雇用形態について、非正規の方は何人おられるか。</p>                                                                                                              |
| 事務局 | <p>留守家庭児童会の指導員については、29年度現在、指導員が8名、嘱託指導員が20名、あとは必要に応じて臨時指導員を雇用している。</p>                                                                               |
| 委員  | <p>非正規職員ということで、嘱託指導員20名を雇用され、子どもの数がそれだけいて、必要に応じて雇われているということだと理解しているが、正規の方と同じような仕事をされるというところで、やはりしっかりと賃金確保の面で、正規で採用されるべきではないかと考えるが、その点はどのように考えるか。</p> |
| 事務局 | <p>指導員、嘱託指導員ともに、放課後児童支援員として指導に当たっているところである。基準条例による支援員数を満たしているということで、必要に応じて臨時指導員を雇用しているが、指導員、嘱託指導員については現状どおりで対応していきたいと考えている。</p>                      |

|    |                                                                                                                                                                                                                                |
|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 委員 | <p>嘱託指導員は、基本的には常勤の形態になると思う。同じ職場で同じように子どもを預かって職務を行われているというところで、待遇に差をつけるのが果たして良いことなのかということもあるし、保育士などを見ていると、募集をかけても人が来ないという状況になっている。そう考えると、待遇面の改善を今から考えておいていただきたい。これは要望とさせていただく。</p> <p style="text-align: right;">採決—挙手多数—可決</p> |
|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

向日市教育委員会議案第4号

向日市教育委員会事務局組織規則及び向日市教育委員会職員の職の設置  
に関する規則の一部改正について

上記のことについて、教育長に対する事務委任規則（昭和31年教育委員会規則第4号）第2条第2号の規定により、教育委員会の議決を求める。

平成30年3月27日提出

向日市教育委員会

教育長 永野 憲男



教育委員会規則第      号      向日市教育委員会事務局組織規則及び向日市教育委員会職員  
の職の設置に関する規則の一部を改正する規則

〔教育総務課〕

1 改正の趣旨

向日市立の小学校及び中学校に勤務する府費負担教職員の人事に関する事務執行体制を充実するため、「向日市教育委員会事務局組織規則」及び「向日市教育委員会職員の職の設置に関する規則」の一部を改正するもの

2 改正の内容

向日市立の小学校及び中学校に勤務する府費負担教職員の人事、服務その他勤務条件に関する事務を処理する職として、人事主事を設置するもの

3 施行期日      平成30年4月1日

## 教育委員会規則第 号

向日市教育委員会事務局組織規則及び向日市教育委員会職員の職の設置に関する規則の一部を改正する規則

(向日市教育委員会事務局組織規則の一部改正)

第1条 向日市教育委員会事務局組織規則（昭和50年教育委員会規則第2号）の一部を次のように改正する。

第4条第1項中「、指導主事」の次に「、人事主事」を加え、同条中第11項を第12項とし、第9項及び第10項を1項ずつ繰り下げ、第8項の次に次の1項を加える。

9 人事主事は、上司の命を受け、府費負担教職員の人事、服務その他勤務条件に関する事務を処理する。

(向日市教育委員会職員の職の設置に関する規則の一部改正)

第2条 向日市教育委員会の職員の職の設置に関する規則（昭和45年教育委員会規則第1号）の一部を次のように改正する。

第2条中第29号を第30号とし、第12号から第28号までを1号ずつ繰り下げ、第11号の次に次の1号を加える。

(12) 人事主事

附 則

この規則は、平成30年4月1日から施行する。

〈参 考〉

向日市教育委員会事務局組織規則の一部改正（第1条関係）

新 旧 対 照 表

| 改 正                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 現 行                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>（職名及び職務）</p> <p>第4条 教育部に部長、副部長、参事、企画主幹、課長、担当課長、主幹、総括指導主事、指導主事、<u>人事主事</u>、副課長、係長及び担当係長を置く。ただし、副部長、参事、企画主幹、担当課長、主幹、総括指導主事、指導主事、<u>人事主事</u>、副課長、係長又は担当係長を置かないことがある。</p> <p>2 部長は、教育長の命を受け、部の事務を統括し、職員を指揮監督する。</p> <p>3 副部長は、部長を補佐し、部の事務を掌理し、職員を指揮監督する。</p> <p>4 参事及び企画主幹は、上司の命を受け、特定の事務を処理する。</p> <p>5 課長及び担当課長は、上司の命を受け、課の事務を処理し、課員を指揮監督する。</p> <p>6 主幹は、上司の命を受け、特定の事務を処理する。</p> <p>7 総括指導主事は、上司の命を受け、学校教育に関する専門的事項の指導に関する事務を処理し、指導主事を総括する。</p> <p>8 指導主事は、上司の命を受け、学校教育に関する専門的事項の指導に関する事務を処理する。</p> <p><u>9 人事主事は、上司の命を受け、府費負担教職員の人事、服務その他勤務条件に関する事務を処理する。</u></p> <p><u>10</u> 副課長は、課長を補佐する。</p> <p><u>11</u> 係長は、上司の命を受け、係の事務を処理する。</p> <p><u>12</u> 担当係長は、上司の命を受け、特定の事務を処理する。</p> | <p>（職名及び職務）</p> <p>第4条 教育部に部長、副部長、参事、企画主幹、課長、担当課長、主幹、総括指導主事、指導主事_____、副課長、係長及び担当係長を置く。ただし、副部長、参事、企画主幹、担当課長、主幹、総括指導主事、指導主事_____、副課長、係長又は担当係長を置かないことがある。</p> <p>2 部長は、教育長の命を受け、部の事務を統括し、職員を指揮監督する。</p> <p>3 副部長は、部長を補佐し、部の事務を掌理し、職員を指揮監督する。</p> <p>4 参事及び企画主幹は、上司の命を受け、特定の事務を処理する。</p> <p>5 課長及び担当課長は、上司の命を受け、課の事務を処理し、課員を指揮監督する。</p> <p>6 主幹は、上司の命を受け、特定の事務を処理する。</p> <p>7 総括指導主事は、上司の命を受け、学校教育に関する専門的事項の指導に関する事務を処理し、指導主事を総括する。</p> <p>8 指導主事は、上司の命を受け、学校教育に関する専門的事項の指導に関する事務を処理する。</p> <p><u>9</u> 副課長は、課長を補佐する。</p> <p><u>10</u> 係長は、上司の命を受け、係の事務を処理する。</p> <p><u>11</u> 担当係長は、上司の命を受け、特定の事務を処理する。</p> |

向日市教育委員会職員の職の設置に関する規則の一部改正（第2条関係）

新 旧 対 照 表

| 改 正                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 現 行                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>（職員の職）</p> <p>第2条 法令に特別の定めのあるものを除くほか、職員の職は、次のとおりとする。</p> <p>(1) 部長</p> <p>(2) 副部長</p> <p>(3) 参事</p> <p>(4) 企画主幹</p> <p>(5) 課長</p> <p>(6) 担当課長</p> <p>(7) 館長</p> <p>(8) 所長</p> <p>(9) 主幹</p> <p>(10) 総括指導主事</p> <p>(11) 指導主事</p> <p><u>(12) 人事主事</u></p> <p><u>(13) 副課長</u></p> <p><u>(14) 係長</u></p> <p><u>(15) 担当係長</u></p> <p><u>(16) 総括主任</u></p> <p><u>(17) 主任</u></p> <p><u>(18) 主査</u></p> <p><u>(19) 技術主査</u></p> <p><u>(20) 主事</u></p> <p><u>(21) 技師</u></p> <p><u>(22) 主任養護職員</u></p> <p><u>(23) 養護職員</u></p> <p><u>(24) 主任栄養士</u></p> <p><u>(25) 栄養士</u></p> <p><u>(26) 主任校務員</u></p> <p><u>(27) 校務員</u></p> <p><u>(28) 主任調理師（調理師免許を有する者）</u></p> <p><u>(29) 調理師（調理師免許を有する者）</u></p> <p><u>(30) 調理員</u></p> | <p>（職員の職）</p> <p>第2条 法令に特別の定めのあるものを除くほか、職員の職は、次のとおりとする。</p> <p>(1) 部長</p> <p>(2) 副部長</p> <p>(3) 参事</p> <p>(4) 企画主幹</p> <p>(5) 課長</p> <p>(6) 担当課長</p> <p>(7) 館長</p> <p>(8) 所長</p> <p>(9) 主幹</p> <p>(10) 総括指導主事</p> <p>(11) 指導主事</p> <p><u>(12) 副課長</u></p> <p><u>(13) 係長</u></p> <p><u>(14) 担当係長</u></p> <p><u>(15) 総括主任</u></p> <p><u>(16) 主任</u></p> <p><u>(17) 主査</u></p> <p><u>(18) 技術主査</u></p> <p><u>(19) 主事</u></p> <p><u>(20) 技師</u></p> <p><u>(21) 主任養護職員</u></p> <p><u>(22) 養護職員</u></p> <p><u>(23) 主任栄養士</u></p> <p><u>(24) 栄養士</u></p> <p><u>(25) 主任校務員</u></p> <p><u>(26) 校務員</u></p> <p><u>(27) 主任調理師（調理師免許を有する者）</u></p> <p><u>(28) 調理師（調理師免許を有する者）</u></p> <p><u>(29) 調理員</u></p> |